

I 研究主題

(平成 30 年度) 生きがいのある豊かな生活の実現を目指して
～「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を位置づけた授業づくりを通して～

(令和元年度) 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」※1を位置づけた授業づくりを目指して
～主体性を育むための単元・題材構想シートを通した授業づくり～

II 設定の理由

「生きがいのある豊かな生活の実現」は本校の教育理念である。1年次は研究を通してこの教育理念を追求すべく主題に設定することとした。新学習指導要領に示された三つの学び※1の視点で授業づくりを行うことで、教育理念から導かれた学校目標「仲間とともに、今を主体的に」に近づけるのではないかと考えたからである。研究過程においては、対象児童生徒に関する単元・題材構想シート(H30 年版)を用いながら、授業づくりを行った。これまでの授業実践を新学習指導要領の三つの学び※1に当てはめた場合のような手立て・支援を行っているかを検証したが、新学習指導要領の方向性としての児童生徒主体の授業を念頭においた実践になっていないことが課題として挙げられ、三つの柱※2と三つの学び※1とのつながりをどのように考えれば良いかなどの疑問点がみえてきた。結果的に授業づくり・授業改善において全職員が授業づくりや児童生徒に真摯に向き合えたという意味において一定の成果を収めることができたが、「生きがいのある豊かな生活の実現」追求には、広義な研究主題と内容であった。

そこで、2年目となる令和元年度は、1年次研究で見えてきた課題に迫るため、児童生徒主体の授業づくりに重きをおいて進めていくこととし、より焦点化させた研究主題に変更した。新学習指導要領に掲げられた三つの柱※2の中の「学びに向かう力・人間性等の涵養」は児童生徒の主体性を目指しており、主体的に取り組む授業を目指すことで、他の二つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」が必然的に身についていくのではないかと考えるものである。児童生徒が主体的に取り組むためには、授業を展開する過程において「どのように学ぶか」の視点が重要であり、授業づくりの上で欠かせないものであることから、「どのように学ぶか」を示す「三つの学び※1を位置づけた授業づくり」を研究主題とした。また、本校ではカリキュラム・マネジメントを推進していく中で、平成30年度研究の考察も踏まえながら、児童生徒が主体的に取り組めるよう「テーマのある生活」を念頭に年間授業計画を作成したところである。研究推進においては、「テーマのある生活」をもとに単元・題材を設定し、児童生徒がより主体的に取り組める授業づくりのポイントを整理しながら進めていきたい。

※1 三つの学び…主体的・対話的で深い学び＝どのように学ぶか

※2 三つの柱…生きて働く知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養＝何ができるようになるか

* 三つの学びおよび三つの柱を含む「新学習指導要領の方向性」については、「p.6 XII 資料」を参照のこと。

III 研究の目的

学校全体(寄宿舎、各分教室も含む)で、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの学びの視点で主体性を育む授業づくりに取り組む。

IV 研究内容・方法

- 1 各学部・寄宿舎・各分教室における研究グループを少人数で構成し、授業づくり・検討を行う。
- 2 テーマのある生活に基づいた年間授業計画(Plan-1)をもとに、児童生徒の主体性を育むための単元・題材の全体計画を立てる(Plan-2)。
- 3 全体計画を作成した後、対象児童生徒を抽出し、「目標」の他、その児童生徒が『どのように学ぶか』、つまりその児童生徒に対し『どのような手立てを組むか』『どのような支援をしていくか』について計画(Plan-3)する。
- 4 授業を行う(Do)。授業を行っていく過程において、対象児童生徒の変容など見ながら、研究グループや授業グループで目標や支援・手立ての妥当性を検証・検討し、授業改善を行う(Check・Action)。授業・授業改善は随時あるいは必要に応じて進んでいく(PDCA の繰り返し)。
- 5 単元・題材終了後、授業全体の改善点をグループで話し合う(Check・Action)。

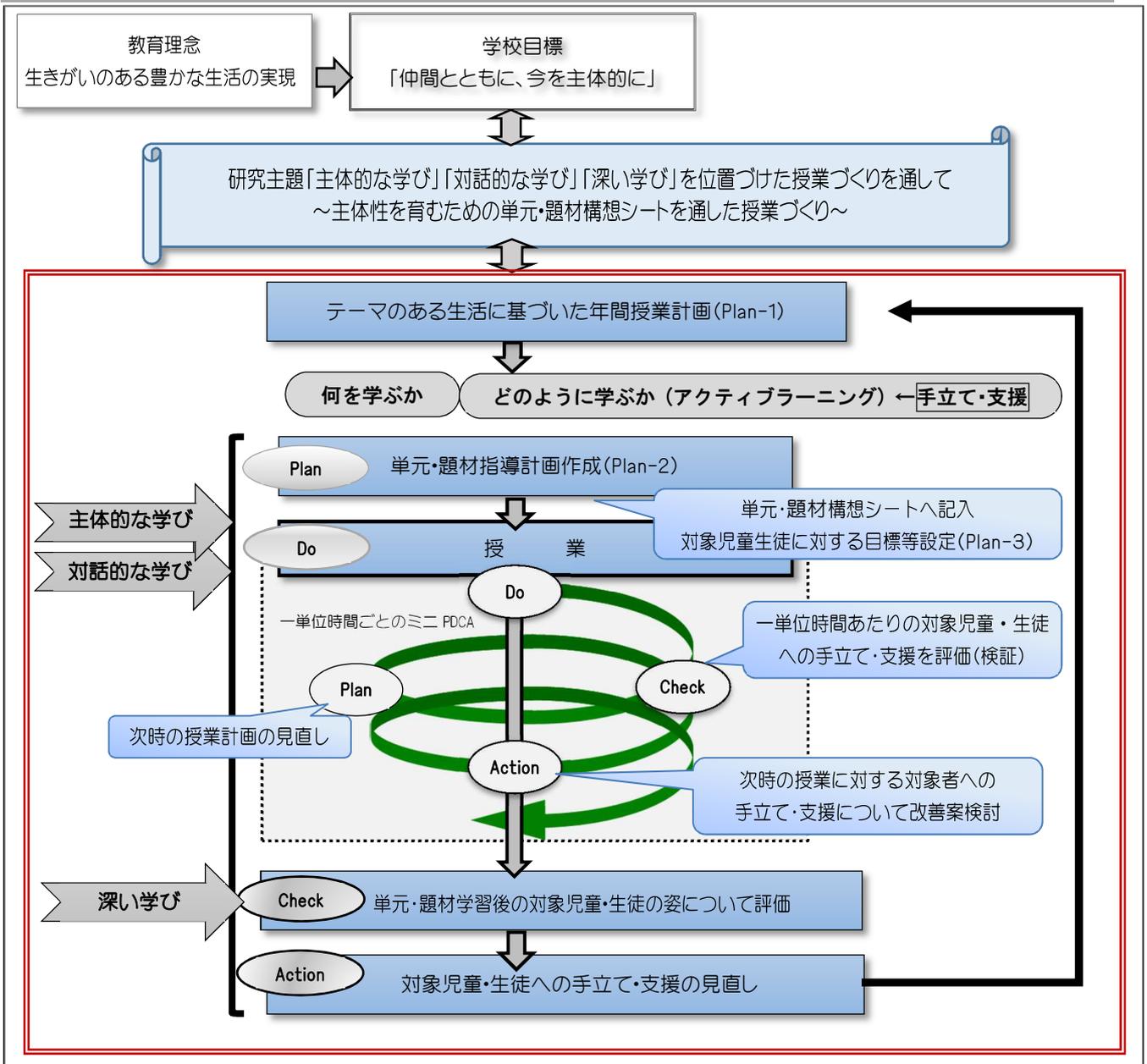
V 研究組織

- ① 全校研究会(年2回)
- ② 学部研究会・寄宿舎研究会(月1回程度、年7回)
 …学部授業研究会、研究グループ研究会の配分は各学部・分教室・寄宿舎の実情に応じて実施
 ア 学部授業研究会・寄宿舎研究会
 イ 研究グループ(授業グループ・棟担当者グループ)研究会

VI 研究授業および研究授業に関わる授業研究会について

- ① 教職経験3年目研修
 高等部:7月 ※授業研究会は研究日に実施(7/17水)
 小学部:11月 ※「開かれた授業研究会」にて指定授業・分科会を実施
- ② 「開かれた授業研究会」(11/29 金)
 公開授業(全校)、指定授業(小・中学部1授業) ・ 分科会
 ※指定授業…小学部:低学団 生単・自活「あきまつりをしよう! ~みんなでいっしょにわっしょい~」
 中学部:作業学習・工芸班「じまん市に向けて製品をつくろう②~お客さんに喜ばれる製品を~」

VII 研究構想図(令和元年度) ※寄宿舎研究においても基本的には同じ流れ



Ⅷ 主な研究推進計画・実施内容(G:グループ研) ※寄宿舎研究推進計画・内容は別項(p.32～)に記載。

月	研究推進日程	教職経験3年目研修関係	開かれた授業研究会関係
4	22(月)第1回全校研究会 ○平成31年度全体研究について	・研究授業・授業研究日決定 ・授業づくりの流れ等確認	
5	22(水)研究日①学部 ○シート記入の仕方について確認 ○G:研究対象(単元・題材、児童生徒)検討 公開研時授業等検討	・年間授業計画(Plan-1) から単元・題材授業計画作成(Plan-2) ・実態把握と目標立て(単元・題材シートへの記入 Plan-3) ・指導案作成	指定授業 G 公開授業 G
6	26(水)研究日②学部 ○G:授業計画(単元・題材構想シート記入)	↓	研究対象の授業と児童生徒 公開時の授業名・内容(予定)を研究部へ提出
7	17(水)研究日③学部 小・中…G:授業計画(単元・題材構想シート記入) 公開授業内容検討 高等部:授業研究会(研究日に実施)	10(水)研究授業	・指導案作成
8	27(火)研究日④学部 ○G:授業計画(単元・題材構想シート記入) 公開授業内容検討		・指導案作成
10	23(水)研究日⑤学部 ○G:授業計画(単元・題材構想シート記入) 公開授業内容検討		検討会 検討会
11	29(金)開かれた授業研究会&高教研講演会 公開授業(2コマ):全学部 指定授業・分科会:小中学部各1授業		指導案提出(10月末)
12	18(水)研究日⑥ ○G:まとめ(単元・題材構想シート全記入、次年度に向けて)		研究授業 授業研究会 (公開日に実施)
1	22(水)研究日⑦学部 ○学部内研究まとめ(検証他)		単元・題材構想シート提出(10月末)
2	18(火)第2回全校研究会 ○今年度全体研究のまとめ ○次年度研究の方向性について		

Ⅸ 検証について

授業づくりの視点(岩手大学教育学部附属特別支援学校 IFT24 2017 研究紀要より)をもとに検証する。

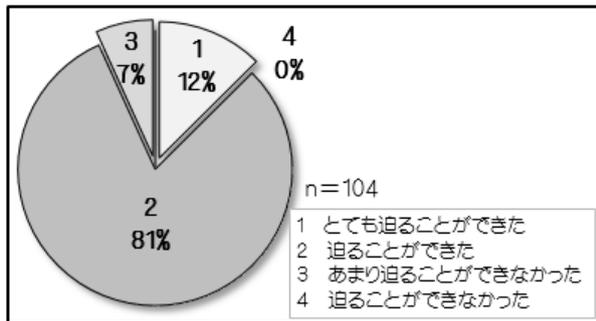
※「授業づくりの視点」については、Ⅻ資料参照。

- ① どの児童生徒も目的をもち取り組めたか。
- ② 中心になる活動を繰り返す計画だったか。
- ③ どの児童生徒も存分に活動できたか。
- ④ 分かって動き、十分活動できたか。
- ⑤ 教師も共に活動しながら、共感的に支援できたか。

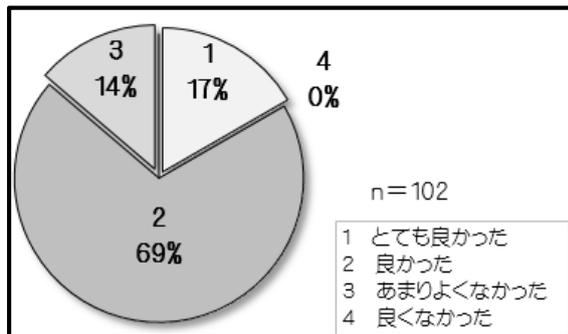
X まとめアンケート結果

※各学部・分教室の結果や、各項目の選択理由は別項(p.7～)を参照のこと。

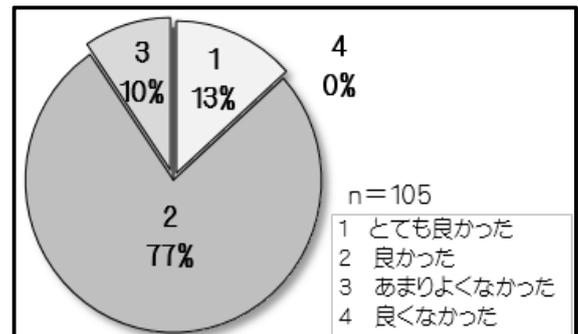
I 研究主題に迫った研究を進めることができたか。



II 単元・題材構想シートについて



III 授業づくりの5つの視点を取り入れたことについて



XI 令和元年度研究のまとめ

各学部・分教室・寄宿舎それぞれの取り組み(p.7～別項参照)、および、まとめアンケート等から。

1 考察

- (1) 「研究主題に迫ることができたか」の問いに対する回答が、「とても迫ることができた」「迫ることができた」を合わせると93%だった。回答の理由として、授業づくり・授業改善をより意識して行えたことを示唆しているものが多く挙げられている。

この結果には、大きく3つの要因が考えられる。一つ目は、1年次の推進方法を継続したことで取り組みやすい状況下であったこと。二つ目は「授業づくりの視点」が、多角的な授業づくりや授業改善の促進剤となり、取り組みやすかったこと。三つ目は、教職経験3年目研修対象者による研究授業や授業研究会、開かれた授業研究会に向けた授業検討と指定授業に対する分科会を通して、職員の授業づくり・授業改善への意識が高まったこと。意識の高まりに拍車をかけた一つとして、お互いの授業を見合う機会を設けたことによる授業づくりの視点の広がりもあったのではないかと推測する。

以上の要因から、研究主題だった「主体性」を目指した授業づくり・授業改善に全職員の意識が向かったことで、研究の目的が達成できたと考える。

- (2) 単元・題材構想シートについては、86%が「とても良かった」「良かった」と回答した。「目指す姿や手立てが明確になった」「取り組む様子を記録して共有することで主体性について考えるツールとなった」「全員で共通理解して取り組むことができた」というのが選択理由に挙げられている。単元・題材構想シートが話し合いのツールとして、優位に活用されたことが分かる。

特に、今年度は、1年次研究で使用した単元・題材構想シート(平成30年度版)に、新たに、授業全体に関する項目を加え、令和元年度版として「単元・題材の設定理由」と「振り返り・改善点」を検討事項に入れた。話し合いの材料にしたことで、対象児童生徒だけでなく、授業全体を考えるきっかけとなり、目標や目指す姿がより明確になったと考える。また、単元・題材設定の理由を検討し、授業を行い、最後に振り返り・改善点の検討を経たことで、次の単元・題材内容の検討や次年度の授業計画に生かされることになったことが報告されたことは、今年度の研究の大きな成果だった。「テーマのある生活」を念頭においた年間授業計画を考える一助となったことは明らかである。

一方で、「記入する部分が多く、どの部分に注目して検討すべきか難しかったように思う」「普段使いするまでに至っていない」という回答があったことも事実であり、単元・題材構想シートの項目や記入の仕方について

ては再検討する必要がある。

- (3) 岩手大学教育学部附属特別支援学校案の「授業づくりの5つの視点」を取り入れたことに関しては90%が「とても良かった」「良かった」と回答し、その理由として、「基準となるものが示されたことにより、よりよい授業を作ることができたから」「評価につなげやすかった」「PDCAを進める上で有効であった」などを挙げている。

授業づくりの具体的な視点が明確になったことにより、授業者間での共通認識を持ちやすく、話し合いの視点ができたことが良かったということが明らかになった。

2 成果

- (1) 研究推進方法を変えずに行ったことによって、授業づくり・授業改善の話し合いが効率的に行われ、実践と連動した研究を進めることができた。次年度研究においても継続していきたい。

ア 授業グループを基本とした少人数による研究グループ編成

イ 単元・題材構想シートのような話し合い用シートの活用

- (2) 単元・題材構想シートに「振り返り・改善点」を入れたことにより、授業に関わる職員間だけでなく、学部内においても共有し、次の単元・題材計画や次年度の授業計画検討に生かすことができた。

- (3) 教職員3年目研修対象者による研究授業・授業研究会、開かれた授業研究会の中で公開授業・指定授業・分科会を通し、客観的な観点で授業について考えることができ、全職員の意識を高めることができた。

3 今後の課題

今年度は、「主体的に取り組む授業を目指すことで他の二つの柱(知識・技能、思考力・判断力・表現力等)が必然的に身についていくのではないか」との仮説に基づき、研究主題を設定した。単元・題材構想シートの記述からもその仮説の妥当性はうかがえるが、「主体的に取り組む授業を目指したことにより」他の二つの柱が「必然的に身についたかどうか」について結論づけるには早計であり、さらなる検証が必要である。

令和2年度研究においても、これまでの研究成果と課題を踏まえ、より実践に生かせる研究としたい。

XII 資料

1 授業づくりの視点(岩手大学教育学部附属特別支援学校 IFT24 2017 研究紀要より)

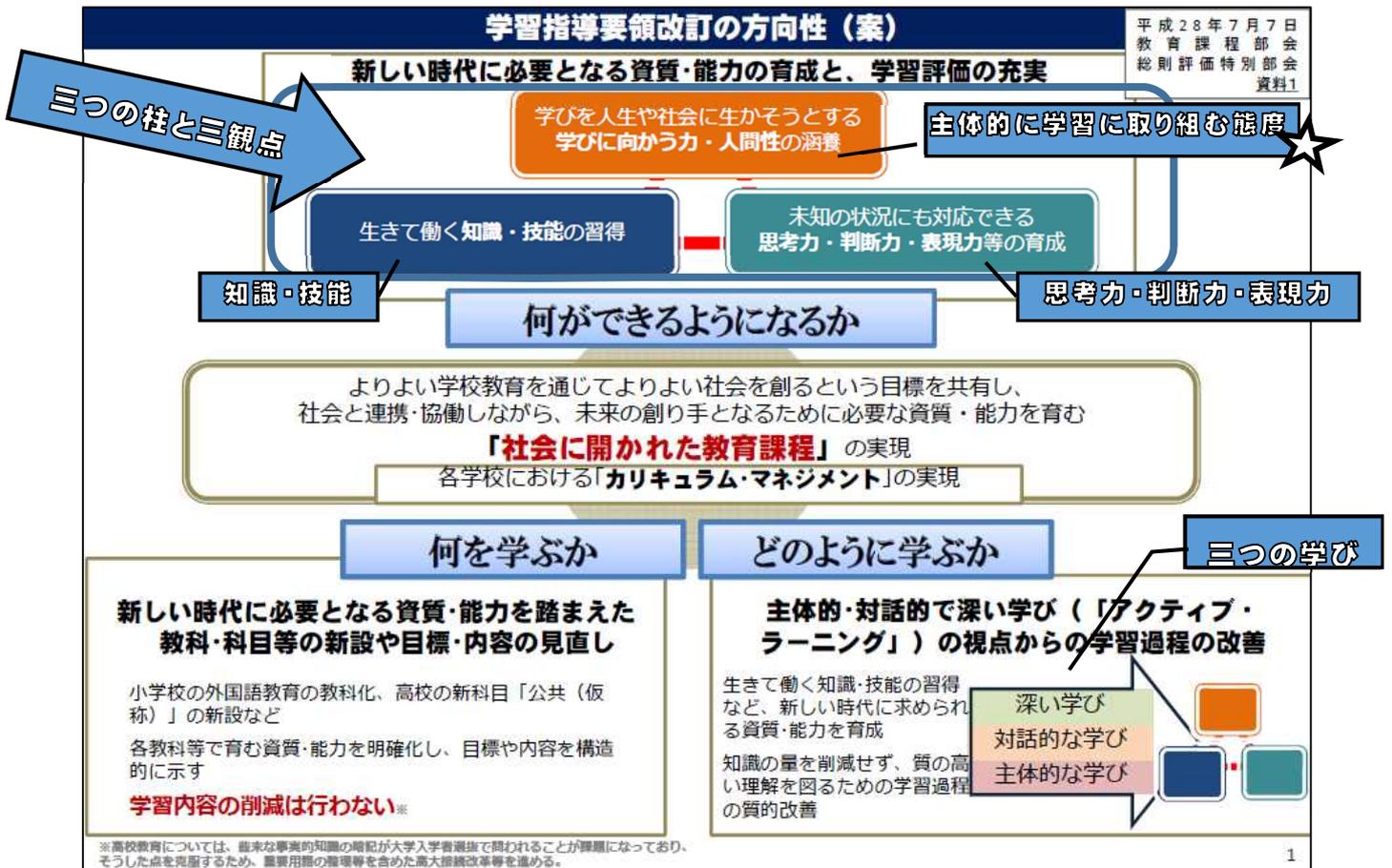
※吹き出しは遠藤校長試案

授業づくりの視点と方向性	「知識・技能」よりも 「主体性」	授業づくりの視点の具体的内容
① 単元の設定 学部目標に基づいて目標を設定 どの児童生徒も目的をもち取り組める単元に		○児童生徒の実生活に結び付いた単元 ○興味・関心や願いを取り入れた単元 ○活動の流れやつながりが明確な単元
② 単元の計画 単元の目標に基づいた指導計画 中心になる活動を繰り返す計画に		○まとまりのある計画 ○繰り返すことで活動を積み重ねることができる計画 ○発展性のある計画
③ 活動内容 単元の計画を推進するための授業の展開 どの児童生徒も存分に活動できるように	「経験」より「達成感・成就感」 生活する力を育む	○集団の中で、人と関わり、自分の役割を遂行できる活動内容 ○自分のもっている力を生かし、やりがいを感じられる活動内容 ○自分で考え、行動できる活動内容 ○達成感、充実感を得られる活動内容 ○自己選択・自己決定ができる活動内容
④ 学習内容への支援 教材教具・場の設定・教師の働きかけ 分かって動き、十分活動できるように		○児童生徒が自分でできる教材・教具 ○自分から活動できる教材・教具 ○十分にに取り組める活動量と時間 ○活動しやすい道具の配置、動線 ○児童生徒が自分でできるような教師間の連携(T-T)
⑤ 協同的活動への支援 児童生徒同士の関わりへの支援・教師との関わり 教師も共に活動しながら、共感的に支援できるように		○共に活動する友達に関心に向け、友達や教師と共に活動できるようにする。 ○教師は児童生徒と共に活動し、児童生徒の自分でできる状況をつくるような適切な関わりをする。

「指導者」「訓練者」より「仲間」「先輩」「人生のお手本」

「集団化と個別化」

2 新学習指導要領の方向性



<小学部>

1 今年度の研究について

(1) 研究グループ編成について

小学部では、研究主題を受け、授業を行っている低学団（1・2・3年）、高学団（4・5・6年）の2つの研究グループを編成し、授業づくり及び研究を進めることとした。なお、重複障害学級、訪問学級も該当の学団に入ることとした。

(2) 取り組み状況について

小学部の教育課程の中心的な生活単元学習において、学部研や学団会等を活用し、前期と後期で単元・題材構想シートを通した授業づくりに取り組んだ。

低学団グループ（1・2・3年）	高学団グループ（4・5・6年）
なつまつりをしよう！ ～みんなでいっしょにたのしもう～（7月～8月）	七夕音楽会をしよう（7月）
あきまつりをしよう！ ～みんなでいっしょにわっしょい～（11月～12月）	地域の人たちと交流しよう④ りんご狩りをしよう（11月）

2 今年度実施した研究経過

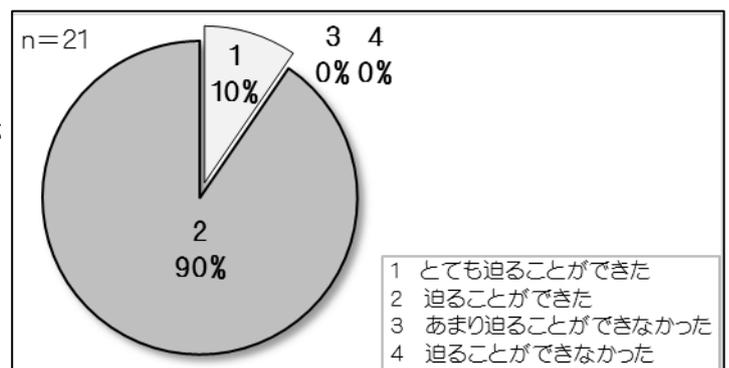
期 日	全 体	主な内容	
4月 22日(月)	第1回全校研究会	令和元年度全体研究について	
5月 24日(金)	研究日①学部研①	研究グループの確認、年間計画の検討	
6月 26日(水)	研究日②学部研②	単元・題材の構想について 長期研修生の研究・研究計画書について	
7月 17日(水)	研究日③学団毎	（3年目研授業研究会）	
8月 27日(火)	研究日④学部研③	開かれた授業研究会の単元・題材の構想について検討	
10月 23日(水)	研究日⑤学部研④	開かれた授業研究会の指導案について検討	
11月 29日(金)	開かれた授業研究会	指定・公開授業、授業研究会	
12月	18日(水)	研究日⑥学部研⑤	学部研究の振り返り
	26日(木)	第2回研修報告会	
1月 22日(水)	研究日⑦学部研⑥	学部研究のまとめ	
2月 18日(火)	第2回全校研究会	令和元年度全体研究のまとめ 次年度研究の方向性について	

3 考察

(1) まとめアンケートから

I 研究主題について

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。



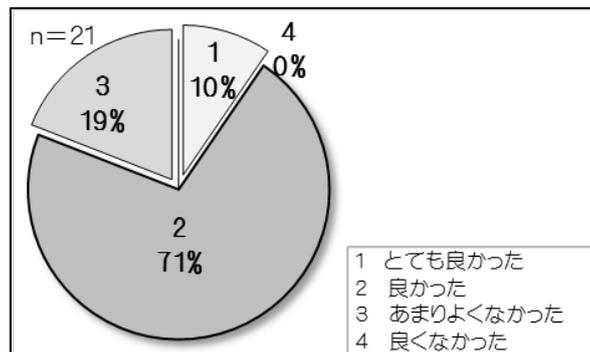
<小学部>

② 選択した理由

- 1・学部全員で授業づくりに取り組んだことにより、新学習指導要領の趣旨を理解できるようになったから。
- 2・研究主題を深く考え、どう子どもたちへ実践していくか考え（皆が）やれたと思う。
 - ・ 生単を中心に各教科に関連させて授業に取り組むことができた。
 - ・ 授業づくりの実践に向けて、研究部や校長先生から3つの学びとはどのようなものか、どのように捉えるのかたくさん教えていただく機会があり、勉強になった。意識しながら授業づくりが行えた。
 - ・ それぞれに考え方の違いはあると思うが、学校として取り組んでいくと決まったテーマに向かって考えが違っても皆で協力してできるともっといいなと思う。
 - ・ 自分の支援・指導について日々考えることができた。
 - ・ 同じ子どもを一緒に見ている教員同士で（学団、学年）短時間でも話し合い、授業づくりを進めていくことができた。
 - ・ 副題に迫ることができた。

II 単元全体、三観点での目標設定および評価を盛り込んだ単元・題材構想シートについて

① 内容的にどうか。活用できたか。



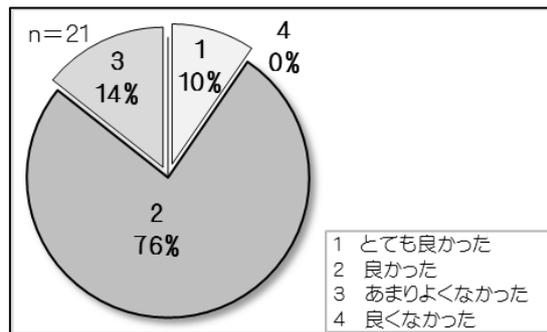
② 選択した理由

- 1・毎時間P D C Aが行われ、授業改善が図られて良かったから。
- 2・児童の目指す姿や手立てが明確になった。
 - ・ 子どもの主体性をより意識することができたから。
 - ・ 児童の目指す姿や手立てが明確になった。
 - ・ 子どもの主体性をより意識することができたから。
 - ・ 児童の共通理解を深められ、他学級の児童に対しての関わり方が自然にできるようになってきた。
 - ・ 書き方が分かりやすく、まとめやすかった。
- 3・主体性は大切だけど、他の観点も大切だと思う。
 - ・（記入はしたが）もっと話し合えば良かった。
 - ・ 普段使いするまでに至っていない。

<小学部>

Ⅲ 授業づくりの5つの視点を取り入れた、単元・題材(授業)づくりと検証について

① 良かったか。活用できたか。



② 選択した理由

- 1 ・基準となるものが示されたことにより、よりよい授業を作ることができたから。
- 2 ・全職員に定着、浸透したのか疑問。
 - ・大事な視点だと感じた。
 - ・はじめは書き方がわかりにくかったが、今回の取り組みを通して書き方が分かった。
 - ・よりよい授業を考えるために役に立った。日々の振り返りで深く考察することができた。

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

昨年度、新学習指導要領の内容について、理解を深めながら実践に落とし込むことが必要という課題が挙げられたが、今年度は、全員が研究主題に「とても迫ることができた」「迫ることができた」と回答している。その理由の一つとして「学部全員で授業づくりに取り組んだことにより、新学習指導要領の趣旨を理解できるようになった」ことが挙げられており、アンケート結果からも、研究主題に迫ることができたと考える。

単元・題材構想シートについては、「全体について」が入ったことにより、学団、学部全体で単元づくりを共有することができた。三観点については、様々な考え方や意見が出されたが、今年度は児童の「主体的な姿」を大切にするという、全体研究の考え方を共有しながら授業づくりを進めることができた。一方、単元・題材構想シートを記入した後の情報共有や共通理解等、シートの活用の仕方については、より工夫が必要であった。

イ 学部研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

学部研究会では、ワークショップ形式を取ることで一人一人意見を出し合い研究を進めてきた。また、毎時間アンケートを取り、改善しながらより良い運営を行うことができた。

研究授業に向けては、授業づくりの5つの視点に沿った単元・題材の構想や指導案の検討、合わせた指導や三観点等について確認する機会を設けて、情報共有をしながら進めることができた。その中でも、合わせた指導（生活単元学習）の考え方については、年度始めに確認した方が、より授業づくりに役立てられたと考える。

授業づくりでは、学団毎に取り組む、5つの視点に沿って考えることができた。低学団は児童の主体的な姿を大切にした授業づくりに、高学団は、年間を通して地域の人とのつながりを大切にしたいと考える。

<小学部>

4 (資料) 単元・題材構想シート

【全体について】

学部	学年・グループ	単元・題材名	授業メンバー (〇・記入者、T1 を記入)
小学部	低学団	なつまつりをしよう! ~みんなでいっしょにたのしもう~	OM、T1 T (級)・M (団) 計13名
単元設定の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・なつまつりに関わる活動に取り組むことで、夏の雰囲気を感じることができるため。 ・低学団の幅広い実態の児童が「楽しむ」ために、繰り返し取り組みやすい内容であるため。 		
振り返り・改善点	<p>○「祭り」を題材に、一体感を味わいながら楽しく取り組むことができた。繰り返しの学習で慣れ、見通しをもって落ち着いて参加できたり、自分から取り組もうとしたりする姿が見られた。</p> <p style="text-align: center;">中 略</p> <p>△単元のゴールが子どもたちに伝わっていたのか。カレンダーを準備するなど、単元(学習)の「終わり」が分かるような手立てが必要だった。</p> <p>△重複学級在籍児童の参加の仕方に工夫が必要だった。2時間設定だと体力面や活動に対する関心、集中など、難しい部分があった。(訪問学級在籍児童も同様)</p> <p>△活動内容が盛りだくさんであった。1、2つほど減らし、じっくりと取り組めると良いのではないかと。</p>		

改善点を次の単元に活かして授業づくりをすることができた。

【対象児童・生徒について】 2年 名前：S・I

1 目標					
<p>◎期待感をもって、教師と一緒になつまつりの活動を楽しむことができる。【主体性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なつまつりのメンバーや音楽に親しみ、同じ学級の友達や教師と一緒に活動することができる。【思考力、判断力、表現力等】 ・なつまつりの活動内容が分かり、教師と一緒に取り組むことができる。【知識及び技能】 					
2 単元・題材の指導計画と主たる学び					
小単元名 (時数・日にち等)	学習内容	目標	手立て・支援	評価	児童・生徒の様子 手立て・支援の改善案
中 略					
学団⑤ みんなでなつまつりをしよう 8月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・招待した教師と、学団合同でなつまつりの活動(写真、歌、ダンス、プレイバールーン、金魚すくい、わっしょい)に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なつまつりの活動内容がわかる。 ・招待した先生方や学団の友達、教師となつまつりの活動を楽しむことができる。 ・教師と一緒に、「おわりのことば」の係に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎繰り返し取り組んで定着を図る。 ◎わっしょいに取り組みやすいように、普段からペアを組んでいるY・Kさんの誘いを受けて活動する。一緒に紐を持つように促す。 ◎毎時間取り組み、事前に係を予告したり、近くで視線を合わせて呼名したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎盆踊りでは、タッチをされることや手を繋いで揺れることが分かり、相手を見て待っていた。同様に金魚すくいでは、佳代Tと一緒に取り組み、繰り返し釣り上げることができた。金魚を釣ったら箱に入れる流れも分かっていた。 ◎わっしょいでは、Y・Kさんと山車をひっぱることができた。紐に自分から手を伸ばした。 △「おわりのことば」の係では、呼名されると前に出てきたが、自分から話すことは難しかった。 	
後 略					
3 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿(対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。)					
<p>◎歌を聞くと自分から体を揺らして楽しんだり、教師と一緒に「わっしょい」と掛け声をかけたりすることができた。盆踊りの「タッチ」という掛け声を覚え、何度も口ずさんでいた。山車の紐に自分から手を伸ばし、引っ張っていた。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S・YさんやY・Kさんと一緒に金魚すくいをしたり、山車を引っ張ったりすることができた。佳代Tと一緒に金魚すくいをすることができた。【思考・判断・表現】 ・金魚すくいのルールが分かり、概ね一人で取り組むことができた。金魚を釣る、釣り上げた金魚を取る、終わったら竿を置いて席に戻る、という流れがスムーズにできた。【知識・技能】 					
4 単元・題材後の改善点等(手立て・支援は妥当だったか。)					
<p>◎見本となる教師が視線を合わせて注目を促すことで、自分から取り組むことができた。係の活動を設定したが、他の役割を検討したり、より繰り返し練習する必要がある。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアのY・Kさん以外の友達や教師と一緒に活動する時間を設けた。普段と変わらない様子で取り組むことができたため、学団の教師や友達など、関わりの幅を広げていくことができると良い。【思考・判断・表現】 ・何度も繰り返し取り組んだことで見通しをもつことができ、児童にとって知っている活動、楽しい活動になった。音声模倣で「頑張り」と応援したり、順番を待つ時間であることも分かっている様子だった。【知識・技能】 					

設定において難しさもあったが、三観点について考えることで、新学習指導要領の内容の趣旨について理解することができた。

< 中学部 >

1 今年度の研究について

(1) 研究グループ編成、進め方について

作業班ごとの研究グループとし、学年縦割りの班で研究を進めた。

(2) 取り組み状況について

作業班ごとに、以下の単元について「単元・題材構想シート」を作成し、検討、実践、改善をしながら、「主体性」を意識した授業づくりを行った。

リサイクル班 工芸班	じまん市に向けて製品をつくろう①	じまん市に向けて製品をつくろう②
木工班	じまん市に向けて製品をつくろう① じまん市に向けて製品をつくろう②	こたままつりにに向けて製品をつくろう
カレンダー班	こたままつりにに向けて製品をつくろう	じまん市に向けて製品をつくろう②

2 今年度実施した研究経過

期 日		全 体	主な内容
4月	22日(月)	第1回全校研究会	平成31年度全体研究について
5月	22日(水)	研究日①	中学部研究の進め方について グループごとの計画の検討
6月	26日(水)	研究日② グループごと①	指導案、単元・題材構想シートの記入、検討-1
7月	17日(水)	研究日③ グループごと②	指導案、構想シートの記入、検討-2
8月	27日(火)	研究日④ グループごと③	指導案、構想シートの記入、検討-3
10月	23日(水)	研究日⑤ グループごと④	指導案、構想シートの記入、検討-4
11月	29日(金)	開かれた授業研究会	
12月	18日(水)	研究日⑥ グループごと⑤	単元・題材構想シートの評価、まとめ
	26日(木)	研修報告会	
1月	22日(水)	研究日⑦ 学部研	学部研究のまとめ
2月	18日(火)	第2回全校研究会	令和元年度全体研究のまとめ 次年度研究の方向性について

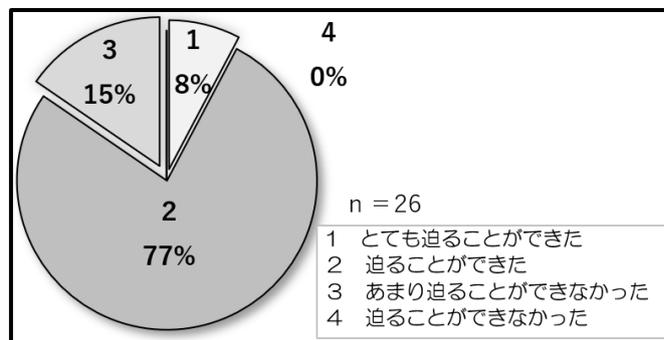
3 考察

(1) まとめアンケートから

I 研究主題について

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。

② 選択した理由(肯定的意見:○)



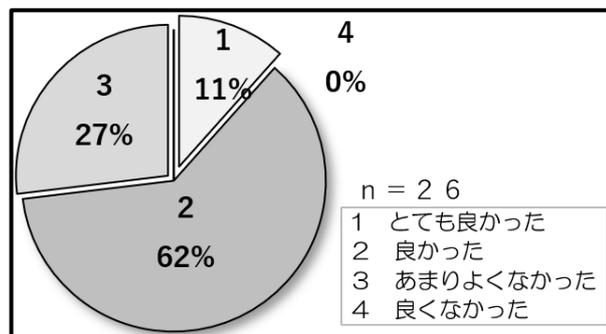
- 授業の実践に役立ってよかった。 ○研究日が充実していた。
- テーマを意識して授業づくりや指導案の整理が行えた。
- この3つの学びがそれぞれどういうものなのか、普段の学習の中で意識することができた。
- ・どの段階を「主体的な学び」ととらえればいいのか、最後までつかみきれてない感が強いので。
- 今回の研究を機会に、新学習指導要領について、考え、学ぶ機会となった。
- 構想シートを記入、検討することで、授業のねらいや生徒の課題を明確にすることができたか

< 中学部 >

- 2年目研や公開もあり、実際に指導案も書き、授業をする機会もあったので、実践として取り組むことができた。
- ・ 仮説的には実戦で役立てたいと考えていたが、準備不足で、十分に生かすことができなかった。
- 授業改善という意識を先生方が持ち、みなさんのアイデアで授業の改善につながったと思う。
- ・ 主体的な学び、対話的な学び、深い学びの理解と実践への落とし込みが不十分だから。研究部の問題というより、自分の問題です。
- 中の作業学習4班が共通の目標をもち、同じ方向性で取り組むことができた。また、互いの作業はについて知る良い機会となった。今後の中の作業学習の方向性を考える機会にもなった。
- 支援具の準備などにも参考意見が聞けたし、方向性も考えやすかった。

II 単元全体、三観点での目標設定および評価を盛り込んだ単元・題材構想シートについて

① 内容的にどうか。活用できたか。

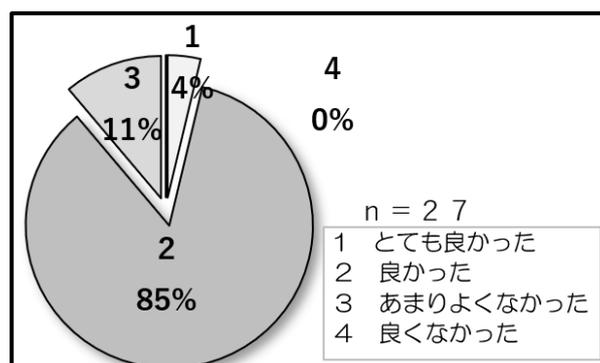


② 選択した理由

- 授業の中で活用できた。活用の仕方が分かりやすかった。
- ・ 記入する部分が多く、どの部分に注目して検討すべきか難しかったように思う。
- ・ 授業で使うために、自分自身が理解して活用することができなかった。
- 生徒の取り組む様子を記録して共有することで、主体性について考えるツールとなった。
- 作業グループで話し合う時間を多くもてたことが良かった。
- ・ 実際の授業と同時進行ではなく、後日、振り返りながらの記入となってしまった。単元のまとめや授業評価の欄の記入の仕方が統一されていなく、授業評価の部分に課題があると感じている。記入例などを提示し、周知できると良かったと思う。
- 個々の生徒の課題について、観点と対応させて計画の立案や指導の方向性を確認できた。
- ・ 作成することで一人一人について(変容等)考えることができたが、活用まではしきれなかった。

III 授業づくりの5つの視点を取り入れた、単元・題材(授業)づくりと検証について

① 良かったか。活用できたか。



< 中学部 >

② 選択した理由

- | | |
|--|--------------------|
| ○具体的に組み込む視点が定まり、良かった。 | ○何に心がけるか、わかりやすかった。 |
| ○5つの視点を整理することができた。 | ○評価につなげやすかった。 |
| ○指導案を直接書いた先生方には、単元づくりをする上で、意識できたのではないかと思う。
その一方で、全体に共有されていたか、という点では、まだまだ意識できていなかったのではないか。継続して取り組めると良いと思う。 | ○授業づくりの視点となった。 |
| ・普段の授業で、なかなか意識できていなかった。 | |
| ○視点があることで、「目指すところ」「ゴール」が明確にできた。次年度は？「視点」についても検討できる場があれば良いか…（できるか？） | |

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

「Ⅰ研究主題に迫った研究を～」の問いには、「とても迫ることができた」「迫ることができた」を合わせると85%となり、「Ⅲ授業づくりの5つの視点を取り入れた、単元・題材（授業）づくり～」の問いには、「とても良かった」「良かった」を合わせると89%となった。それを選択した理由として「意識することができた」「目指すところが明確になった」という意見が多く、概ね達成することができたといえる。一方で、「どの時点で主体的な学びととらえればよいかわからなかった」「3つの学びの理解と実践への落とし込みが不十分だった」という意見があり、新学習指導要領に関する研修の機会がやや不足していたことが課題として挙げられる。

また、「Ⅱ単元全体、三観点での目標設定および評価を盛り込んだ単元・題材構想シート～」の問いに対しては、「とても良かった」「良かった」が73%とやや低く、「あまり良くなかった」「良くなかった」が27%であった。単元・題材構想シートを使用したことにより「共有することができた」「観点と対応させて計画の立案や指導の方向性を確認できた」とする肯定的な意見が見られる一方で、「記入する部分が多くどの部分に注目して検討すべきか難しかった」「記入法についての統一がされていると良かった」等の意見があり、記入の仕方については検討する必要があると言える。単元・題材構想シート自体は昨年度から引き続き使用しているが、記入欄が増えたなどの変更により混乱があったことが要因として考えられる。

イ 学部研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

学部研究会では、前半に全体で進め方の確認をし、後半はグループごとに単元・題材構想シートや指導案の検討、意見交換を行ったため、グループごとの足並みをそろえることができた。授業検討をする機会が少ない作業学習を研究対象にしたことで、研究と兼ねた授業検討の機会が増え、生徒の実態や支援方法について共有する機会が持てたことは有益であった。また、単元・題材構想シートを活用したことで、研究対象以外の学習活動でも、「主体的な学び」や「対話的な学び」を引き出す手立てや支援を意識するようになったことは、最大の成果だったと考える。新学習指導要領の三観点に基づいた目標や評価の仕方についても、少人数でのグループ協議を通じ、理解を深めることができた。しかし普段の授業で意識するまでには至っておらずまだ不十分である。今後、研修や研究方法の検討をする必要がある。

< 中学部 >

4 (資料) 単元・題材構想シート

【全体について】

学部	学年・グループ	単元・題材名	授業メンバー (〇…記入者、T1を記入)
中学部	リサイクル班	「じまん市に向けて製品を作ろう②」	〇 K、T1 : A
単元設定の理由	2回目のじまん市は今年度最後の販売会である。これまでの作業学習での経験を生かし、今までで一番良い製品を作ったたくさん販売しようと、生徒が意欲的に作業に取り組むことができると考え、本単元を設定した。		
振り返り・改善点	<p>メインの活動となる製品づくりの活動では、担当工程を固定し、繰り返しの活動とすることで、自分なりに見通しをもったり、工夫したりしながら取り組む姿が見られ、リサイクル班個々の生徒の成長が感じられた。</p> <p>その一方、改善点は二点挙げられる。第一に、「じまん市に向けた取り組み」という単元全体の見通しへの支援。第二に、自分が携わった工程が、どのように完成品となるのかという見通しをもちながら活動できるための支援である。</p> <p>第一の単元全体への見通しに対する支援としては、当日販売活動に参加できない生徒もいることから、「じまん市の販売準備をしよう」の小単元において、全員で袋詰めや値札貼りの活動を行ったり、ポスターやちらしの作成、それらを使用した宣伝活動に取り組むことなどが考えられる。二の製品が完成するまでの見通しに対する支援としては、自分の担当工程に自信をもって取り組めるようになった時期に、製品が完成するまでの一連の流れを体験することで、商品完成までのイメージがもてるようになると思う。</p>		

【対象児童・生徒について】

3年

名前：H・S

1 目標					
<p>◎じまん市で販売することを理解し、時間いっぱい紙すき作業に取り組むことができる。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順表を手がかりにし、道具の準備をすることができる。【思考力・判断力・表現力】 ・販売する製品づくりをしていることを意識しながら、丁寧に紙すきができる。【知識・技能】 					
2 単元・題材の指導計画と主たる学び					
小単元名 (時数・日ごち等)	学習内容	目標	手立て・支援 ①: 主体的な学びを引き出す ②: 対話的な学びを引き出す	評価	児童・生徒の様子 手立て・支援の改善案
中 略					
じまん市で販売する製品を作ろう	・ポチ袋の紙すき ・紙ちぎり	主:じまん市で販売することに期待感をもち、時間いっぱい紙すき作業に取り組むことができる。 主:最後まで自分の工程に取り組むことができる。	① 時間いっぱい継続して取り組めるように、前単元まで有効であった支援を継続する。 ② 時間の見通しがもてるようにタイムタイマーを使用する。 ③ 中途半端な作業にならないよう、タイムタイマーがなかった後の作業については、教師と確認する。	○ ○ ▲ ○	毎時間、時間いっぱい取り組むことができた。 タイムタイマーで終了時刻を理解し、班長として「作業をやめてください。」と伝えることができた。 その一方、タイムタイマーが鳴ると、作業途中でキリが悪くても止めようとするなど、タイムタイマーにこだわる面も見られる。最終的な判断は教師と確認するように促す。 タイマーがなってすぐに、どこまでやるか確認を行うことで、そこまでは落ち着いて作業ができた。
後 略					
3 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿 (対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。)					
<p>◎オリエンテーションで、じまん市の日程や、じまん市に向けて販売することを覚え、毎時間の活動では、時間いっぱい紙すき作業に取り組むことができていた。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣れが出てきたせいなのか、落ち着いて作業するのが難しいせいなのか、複数の理由が考えられるが、準備の手順表を使用しても、順番を飛ばして、自分の思い付きで持ってきたり、持ってきたものを違う場所に置いたりすることが単元の終わりでも見られる。【思考力・判断力・表現力】 ・「販売する製品づくりをしていることを意識する」ことをどの程度理解できていたのか判断するのは難しいが、自分がすいている紙がポチ袋になるということは理解できていた。【知識・技能】 					
4 単元・題材後の改善点等 (手立て・支援は妥当だったか。)					
<p>◎じまん市に向けた日々の取り組みということは理解しているが、すいた紙が、どのようにポチ袋になるのか、模様付けの工程を見る機会がなかったり、袋詰めや当日の販売を行っていなかったりするため、じまん市へ向けた活動の全体像の把握は難しかったと思われる。自分の担当する工程を繰り返すことに加え、他の工程の様子を実際に見たりする時間を設けると、より理解が深まると考える。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズにできていたものが、できなくなることもあるため、様子を見ながら、教師の支援を増やした点は良かったと考える。次単元でも様子を見ながら、支援の最適化を図る。【思考力・判断力・表現力】 ・パルプ液の中の様子を見ることは難しいため、手を離さないように動作や声掛けにより支援を行ったが、それが本人に正しく伝わっているのか否か分からないため、支援の妥当性を判断するのも難しい。ただし、すき終えた物を見ると、きれいな形のものが多くなっているため、支援の意味を理解できていると考える。【知識・技能】 					

< 高等部 >

1 今年度の研究について

(1) 研究グループ編成について

作業班での研究グループを組み、「単元・題材構想シート」を用いて、生徒の主体性に迫る授業づくりを行った。

(2) 取り組み状況について

作業班	期 日	内 容
木工班	7～11月	こたままつりに向けて製品を作ろう
紙工班	7～11月	こたままつりに向けて製品を作ろう
環境整備班	6～1月	地域施設を清掃しよう、プール清掃をしよう
調理班	7～11月	こたままつりに向けて製品を作ろう
手芸班	8～11月	お客様に喜んでもらえる製品づくりに取り組もう
農作業班	4～11月	こたままつりに向けて農作物を育てよう
エコワーク班	6～11月	こたままつりに向けて（メモ帳の製作）
窯業班	7～11月	こたままつりで製品を販売しよう

2 今年度実施した研究経過

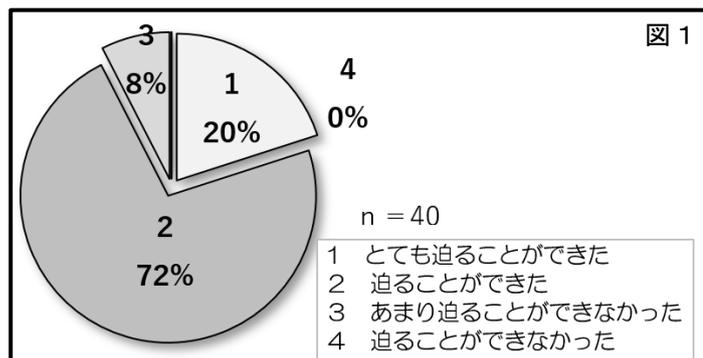
期 日	全 体	主な内容	
4月 22日(月)	第1回全校研究会	平成31年度全体研究について	
5月 22日(月)	研究日①	研究内容・方法確認、年間計画検討、対象生徒検討	
6月 26日(水)	予備日	各班検討会	
7月 17日(水)	研究日②	3年目研授業研究会	
8月 27日(火)	研究日③	単元・題材構想シート説明（単元内容検討） 単元・題材構想シート記入	
10月 23日(水)	研究日④	単元・題材構想シート記入（評価に向けて）	
11月 29日(金)		開かれた授業研究会、高教研講演会	
12月	18日(水)	研究日⑤	単元・題材構想シート各グループまとめ
	26日(木)	第2回研修報告会	
1月 22日(水)	研究日⑥	学部研究のまとめ	
2月 18日(火)	第2回全校研究会	令和元年度全体研究のまとめ 次年度研究の方向性	

3 考察

(1) まとめアンケートから

I 研究主題について

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。



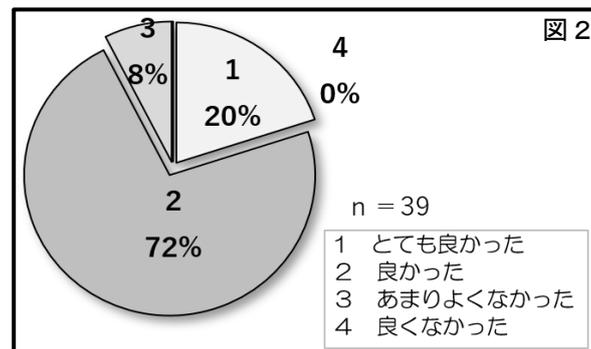
< 高等部 >

② 選択した理由

- ・昨年も取り組んだが、昨年度よりもより深く意識した授業づくりをすることができた。
- ・授業づくりを通して主体的な学びなどについて考えることができた。作業について皆で話し合う良い機会となった。
- ・生徒の主体性を意識しながら授業づくりをしていた。
- ・グループ内で共通理解して進めることができた。
- ・生徒の支援の仕方を考える上でよかった。
- ・一つ一つの単元を改めて上記の観点を意識して取り組むことができた。
- ・観点を項目化することで生徒・教師それぞれの目標や手立てを話し合う上で役立った。
- ・シート記入を通して作業班では主体性等、どのように支援し授業づくりをしていくか話し合うことができた。
- ・シートを活用することで、学部やグループが異なっても統一した様式で研究を推進していくため見やすく、見通しもよかった。
- ・構想シートという具体的なツールを基に授業を作り、振り返ることができた。
- ・新学習指導要領の理解と、授業の見直しになった。

Ⅱ 単元全体、三観点での目標設定および評価を盛り込んだ単元・題材構想シートについて

① 内容的にどうか。活用できたか。



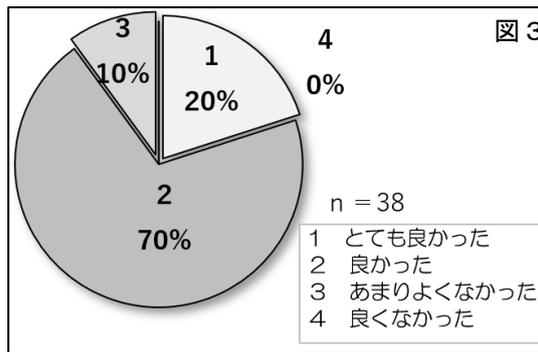
② 選択した理由

- ・昨年度からよりバージョンアップして様式を作成できたのでよかった。
- ・実態に合ったシートであり、活用できる場面が多かった。
- ・去年より書きやすいシートになったように感じる。
- ・個に焦点を当て、目標等を具体的に明示し取り組むことによって、共通理解の基に指導することができた。
- ・単元についての振り返りや改善点について考えることができた。
- ・その都度、職員同士で話し合いながら配置、教材準備、目標設定をすることができた。
- ・「職員も共に活動する」ことで、生徒たちの思い、必要な支援を細かく探ることができた。
- ・三観点を意識することができた。
- ・三観点を示すことで、多様な観点で目標にせまることができた。
- ・具体的な視点を明確にしたことで全員で共通理解して取り組むことができた。
- ・主体性とは何かについて考えることができた。
- ・多忙なためじっくり授業づくりができなかった。

<高等部>

Ⅲ 授業づくりの5つの視点を取り入れた、単元・題材(授業)づくりと検証について

① 良かったか。活用できたか。



② 選択した理由

- ・ 具体的な視点を明確にしたことにより全員で共通理解して取り組むことができた。
- ・ 児童生徒の満足感とは何か、子どもの視点に立って考えようとすることができた。
- ・ 一人一人のスキルに応じた工程で、その生徒に応じた作業を教師と生徒が共感しながら、素敵な製品をつくることができた。
- ・ 過去の研究の蓄積から議論され構築されていたので活用しやすかった。
- ・ 「職員も共に活動する」ことで、生徒たちの思い、必要な支援を細かく探ることができた。
- ・ 視点がPDCAを進める上で有効であった。
- ・ 授業に目標や目的をもって、生徒と教師が共に取り組むことができた。
- ・ 5つの視点を常日頃から意識できるとよい。
- ・ 偏り（バランスのとれた）のない単元・授業にすることができたと思う。
- ・ 授業の準備期間が必要であるためこの時期が良い。
- ・ 5つすべてではなくその中で問題・課題とすべきことを見つけることができた。
- ・ 作業学習が軌道に乗り、こたままつり後で、落ち着いた気持ちの生徒が多かったため。
- ・ 多忙なためじっくり授業づくりができなかった。
- ・ 授業によっては内容に合わないものもあった。

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

研究主題について図1より「Ⅰ研究主題に迫った研究を進めることができたか」の問いに「とても迫ることができた」が20%の値が出ており、「迫ることができた」の72%を合わせると90%以上の高い数値である。研究2年次となり授業づくりの方法が定着してきたこと、単元・題材構想シートが実質的に活用できたこと、職員間の共通理解が図られたことにより、研究主題に迫る取り組みが有効であったことがうかがえる。

図3より「Ⅲ授業づくりの5つの視点を取り入れた単元・題材（授業）づくりと検証について」 「とても良かった。良かった」を合わせると90%と高い数値を出しているにも関わらず、「あまりよくなかった」が10%の値が出ており、少数ではあるが課題として認識しなければならない。

記述を見ると「授業づくりの5つの視点」について意識が高まったことや検証時の有効性はあげられてはいるが、毎日の授業において5つの視点すべてを網羅するのは難しいと感じたことが意見としてあがっており、5つの視点の汎化性について検討が必要であったことが考察される。

< 高等部 >

イ 学部研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

高等部では学部研究1年次に「主体的な学び」と「対話的な学び」について検証し、職員間で共通理解の基に2年次の学部研究を開始した。2年次は主体性を育むための授業改善の実践をさらに図ることを目的として研究を行った。

1年次に課題となった検討する時間を確保するのが困難であったという反省点を改善するため、研究推進日程、研究年間計画等で内容の精選を図った。高等部作業では単元が長期に渡ることが特徴で、ひとつの単元に焦点を当て、その中で授業改善を行うことができた点、研究グループが作業班であったことで、検討する際、生徒の主体性について内容を深めることができた点等を鑑みても大きな成果であり、目の前にいる生徒について主体性を育む授業づくりができたと考える。

4 （資料）単元・題材構想シート

学部	学年・グループ	単元・題材名	授業メンバー（〇…記入者、T1を記入）
高等部	手芸班	お客様に喜んでいただける製品を作ろう～9月の花巻まつり特産品フェアの向けて～	OH T1 M
単元設定の理由	年間をとおして「素材づくり」と「製品づくり」を繰り返し行い、販売会に向けて全員で取り組んでいる。素材づくりから販売までの活動を通して、担当する仕事に対する責任感、精一杯取り組む力や自分から作業に取り組む主体性、仲間と関わる力や連絡・報告などコミュニケーション力、働くことの楽しさや喜びが持てると考える。そして、販売会で自分たちの製品を称賛してもらったり、実際に購入してもらうことで喜びへとつながり、更なる製品づくりへの意欲とつながっていきたい。花巻まつりの販売会ににむけた製品づくりを意識することでお客様に喜んでいただける製品を作ろうという意欲になると考え、この単元を設定した。		
振り返り・改善点	<p>○花巻まつりで「お客様に喜んでもらえるような製品をつくらう」という目標を黒板に掲示したり、朝のミーティングや振り返りの時間に話して、生徒に意識付けできるようにした。そのため、生徒自身も目的が明確になり集中して取り組む姿が見られた。</p> <p>○生徒一人一人がそれぞれの得意なことやできることに繰り返し取り組めるような製品を設定した。生徒の実態や様子を見ながらバージョンアップさせたものにも取り組んだ。存分に活動する姿が見られた。</p> <p>○花巻まつりに向けて、何個作るのかを具体的に表示することで、個数を意識して丁寧に精一杯取り組む姿が見られた。それぞれの生徒に合った「分かる」「できる」製品づくりに時間いっぱい取り組むことで達成感が得られ、残分に活動することができた。</p>		

3 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿（対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。）
<p>◎【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>作業内容や手順が分かり、時間いっぱい作業に取り組むことができた。</p> <p>・【思考力・判断力・表現力】</p> <p>ピース通しでは、好きな配色を考えてピースを選び、時間いっぱい黙々と取り組んだ。</p> <p>教師が他の生徒の対応をしていると、自ら判断して報告のタイミングをずらして待つことがあった。</p> <p>・【知識・技能】</p> <p>落ち着いていれば、縫いとばさずに刺し子をすることができた。また、ヨーヨーキルトでは手本のとおり、まっすぐな縫い目で縫うことができた。</p>
4 単元・題材後の改善点等（手立て・支援は妥当だったか。）
<p>◎【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>一人でも「分かる」「できる」が増えるように教材や補助具などの更なる工夫が必要だった。</p> <p>・【思考力・判断力・表現力】</p> <p>「～したい」など製品に対する意見がでたので、できるだけ意見を取り入れることで、よりいっそう自分で考え判断して取り組めるようになると思われた。</p> <p>・【知識・技能】</p> <p>疲れてきたり、落ち着かなくなったりすると、作業に集中できず、間違えたり縫い目が雑になる傾向が見られた。適宜休憩を入れたり、指示事項や作業量を調整するなどの配慮が必要だった。</p>

<遠分小>

1 今年度の研究について

(1) 研究グループ編成について

グループには分けず、分教室全体で手立て・支援を評価し授業の改善をした。学団、学級での単元・題材の場合も分教室全体で意見交換し共通理解を図った。

(2) 取り組み状況について

低学団	生活単元学習	ふるさと村に行こう（校外学習①）
低学団	生活単元学習	童話村に行こう（校外学習②）
高学団	音楽	秋の歌を楽しもう

2 今年度実施した研究経過

期 日		全 体	主な内容
5月	29日（水）	研究日①	・具体的な進め方の検討、年間計画の検討
7月	10日（水）	研究日②	・単元・題材構想シート評価①
9月	24日（火）	研究日③	・単元・題材構想シート評価②
10月	31日（木）	研究日④	・単元・題材構想シート評価③
11月	29日（金）	開かれた授業研究会	
12月	26日（木）	研修報告会	
1月	29日（水）	研究日⑤	・平成31年度学部研究のまとめ

3 考察

(1) まとめアンケートから

I 研究主題について

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。

【1 とても良かった、とても迫ることができた】1名

【2 良かった、迫ることができた】6名

② 選択した理由

- ・自分が入っている学級の授業づくりや改善に繋がり、共通理解を図ることができた。
- ・他の学団の授業の様子や児童の実態を理解することができた。
- ・授業づくりに役立った。
- ・研究会の中で児童のどのような姿が主体的な姿か、授業づくりについて話題にあがりよかった。全体で考える場になった。
- ・1年次の研究主題より、より具体的な主題設定での研究となった。少しでも3つの学びを意識して取り組めたと思う。
- ・題材構想シートを利用して職員間で活発な意見交換ができた。

II 単元全体、三観点での目標設定および評価を盛り込んだ単元・題材構想シートについて

① 内容的にどうか。活用できたか。

【1 とても良かった、とても活用できた】3名

【2 良かった、活用できた】4名

<遠分小>

② 選択した理由

- ・三観点を意識して目標を立てることができた。
- ・三観点を取り入れた目標設定、及び評価があることで、ぶれることなく授業づくり、評価ができた。単元・題材構想シートが作成しやすかった。
- ・手立てや支援の振り返りとしてよかった。
- ・単元全体についてとそれに伴う対象児童についての個別に取り組む目標、学習内容、手立て、支援など細かく書かれていて分かりやすかった。

Ⅲ 授業づくりの5つの視点を取り入れた、単元・題材(授業)づくりと検証について

① 良かったか。活用できたか。

- 【1 とても良かった、とても活用できた】 1名
- 【2 良かった、活用できた】 6名

② 選択した理由

- ・活動を繰り返して続けていく中でこの視点に沿った支援方法が見えてきた。次第に子どもたちの主体的な活動が自然と見られた。
- ・授業づくりの視点と方向性、視点の具体的内容が示されたので取り組むヒントになった。
- ・5つの視点を取り入れたことによりぶれることなく授業づくりや評価ができた。

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

<成果>

- ・アンケート結果より、研究主題に迫った研究をすすめることができたといえる。

<課題>

- ・研究主題に迫った研究について「とても迫ることができた」を選択したのは1名のみだった。三つの学びをより意識した主体性を育むための授業づくりに継続して取り組む必要がある。
- ・授業づくりの5つの視点について「とても活用できた」と答えたのが1名のみだった。普段から意識して支援・指導にあたるよう学習を深めていくことが今後の課題である。

イ 学部研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

<成果>

- ・単元・題材構想シートに記入し分教室職員全員で見合うことで、手立てや支援が個に応じたものかどうか振り返り、授業づくりの改善につなげることができた。
- ・授業に入っていない職員との意見交換をすることで、支援方法についての気付きが得られ、普段接する機会の少ない児童について共通理解ができた。

<課題>

- ・授業づくりやシートの記入を授業に入っている職員が複数人で進められる方法の検討が必要である。いろいろな視点から題材、手立て・支援などについて深めていく必要がある。

<遠分小>

4 (資料) 単元・題材構想シート

【全体について】

学部	学年・グループ	単元・題材名	授業メンバー (○…記入者、T1を記入)
遠分小	低学団	童話村に行こう (生活単元学習)	OS T1 H
単元設定の理由	6月に遠野市内の施設でスクールバスを利用した校外学習を経験したこと、友達同士の関わりが増え一緒に活動することの楽しさや安心感がでてきたことから、児童にとって未経験または経験が少ない公共交通機関や遠野市外の公共施設を利用する経験を通し、集団活動のルールが学べるよう設定した。		
振り返り・改善点	1回目の校外学習を経験したことを踏まえ活動内容を設定したことで、児童が見通しをもち取り組むことができた。大雨の影響で電車が運休となったが、集団活動のルールや電車の乗り方を学習したことを生かし、芸術鑑賞教室で本校に行く際に電車利用の経験を積み重ねたい。		

【対象児童・生徒について】

1年[♂] 名前：K. K[♂]

1 目標 【個別の教育指導計画前期生単目標：教師や友達と一緒に歩いたり行動したりする。】					
<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師と一緒に歩くことができる。【主体性】 ・校外学習で楽しかったことを写真の中から選ぶことができる。【思考力、判断力、表現力等】 ・教師や友達と一緒に電車やスクールバスに乗ったり、童話村の見学をしたりすることができる。【知識及び技能】 					
2 単元・題材の指導計画と主たる学び					
小単元名 (時数・日にち等)	学習内容	目標	手立て・支援	評価	児童・生徒の様子 手立て・支援の改善案
			㊦：主体的な学びを引き出す ㊧：対話的な学びを引き出す		
中 略					
事前学習③ 「でんしゃのりかたをしろう」 8 / 2 6 (月)	電車の乗り方練習	・友達や教師と一緒に乗り物に乗る練習をすることができる。	㊦ 活動に見通しが持てるように最初は友達の様子を見られる順番にする。 ㊧ 友達と一緒に電車やバスに見立てた箱に入って教室や廊下を歩く活動を行う。	○ △	・友達の様子を見て、自分の番になると、財布から切符を出して改札口に見立てた段ボールの穴に入れようとしていた。 ・床に座ったり、箱に掴まって足を上げ友達にぶつかってしまう場面があった。 →改善案：教師も一緒に箱に入って支援を行った方が良い。 2回目には教師も一緒に入ることで落ち着いて活動することができた。
校外学習 「どうわむらにいこう」 8 / 2 8 (水)	校外学習に行く。	・友達と一緒に童話村を見学することができる。 ・友達や教師と同じペースで童話村を歩くことができる。	㊧ 初めての場所や暗い場所でも入れるように友達の後から移動するような順番にする。 ㊦㊧ 集団で歩けるように、列の後方を歩く。安全と思われる場所では一人で歩けるように手を離し近くで見守る。	○ ○	・友達の後を追うようにして施設内を歩き進めることができた。暗い場所では途中で座り込みがあったが泣かなかった。 ・階段は全て一人で上り下りした。平坦な道でも半分は自分の足で歩いた。
後 略					
3 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿 (対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。)					
◎【主体的に学習に取り組む態度】 集団での活動に見通しをもち、落ち着いて参加することができた。公共の施設やバスでの移動を経験することができた。 ・【思考・判断・表現】 楽しい気持ちを教師に表情や声、動きで伝えていた。写真を見て楽しかった思い出を振り返ることができた。 自分から歩き始めたり、教師を引っ張って行こうとするなど、意欲をもって活動していることが行動に表れていた。 ・【知識・技能】 教師や友だちと一緒に移動したり見学をすることができた。 「ここにこえがお」、「しずかにする」、「みんなといっしょ」のやくそくを守ることができた。					
4 単元・題材後の改善点等 (手立て・支援は妥当だったか。)					
◎【主体的に学習に取り組む態度】 当日は電車が運休になったが、切符を改札に入れる練習や、ダンボール電車にみんなで乗る経験ができた。 ・【思考・判断・表現】紙媒体での写真提示は本人が注目しやすく有効だった。 ・【知識・技能】歩く場所が平坦だったり、長くなると気分が乗らなくなり座り込む。抱きかかえて移動したが、自分の足で歩く経験を増やしていきたい。					

<遠分中>

1 今年度の研究について

(1) 研究グループ編成について

教員が2名のため、2名で研究を進めた。単元・題材構想シートを作成して、検討・確認・改善を繰り返し行いながら、「主体性」「対話」を重視した授業作りを行った。

(2) 取り組みの状況について

総合的な学習の時間（野菜栽培）：土作りをしよう、定植をしよう、観察をしよう、収穫をしよう
プランター栽培のまとめをしよう、文化祭で発表しよう

2 今年度実施した研究経過

期 日		全 体	主な内容
4月	22日（月）	第1回全校研究会	平成31年度全体研究について（遠分中は不参加）
5月	22日（水）	研究日①	単元構想シートの記入、検討①
6月	26日（水）	研究日②	遠分中研究の進め方、計画の検討
7月	17日（水）	研究日③	単元構想シートの記入、検討②
8月	27日（火）	研究日④	単元構想シートの記入、検討③
10月	23日（水）	研究日⑤	単元構想シートの記入、検討④
11月	29日（金）	第2回全校研究会	
12月	18日（水）	研究日⑥	単元構想シートの記入、検討⑤
	26日（木）	第2回研修報告会	
1月	22日（水）	研究日⑦	学部研まとめ
2月	18日（火）	第2回全校研究会	令和元年度のまとめ、次年度の研究の方向性

3 考察

(1) まとめアンケートから

I 研究主題について

研究主題に迫った研究を進めることができたか。→良い100%

選択した理由

- ・「主体性」な学びと「対話的な」学びを意識した授業作りができたため。
- ・生徒が主体的に活動できる内容や手立て、目標設定を意識し、授業計画を立てることができた。

II 単元全体、三観点での目標設定および評価を盛り込んだ単元・題材構想シートについて→良い100%

選択した理由

- ・シートに記入することで授業のポイントや方向性、生徒の学びについて整理し、見通しをもって授業を進めることができたため。
- ・手立てや支援・授業を見直して、授業を進めることができた。

III 授業づくりの5つの視点を取り入れた、単元・題材(授業)づくりと検証について→良い100%

選択した理由

- ・シートへの記入がそのまま5つの視点を取り入れることにつながり、取り組みやすかった。
- ・5つの視点を意識した授業作りや評価ができた。

<遠分中>

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

「Ⅰ研究主題について」、「Ⅱ単元全体、三観点での目標設定および評価を盛り込んだ単元・題材構想シートについて」、「Ⅲ授業づくりの5つの視点を取り入れた、単元・題材(授業)づくりと検証について」の全ての問いで「よい」という結果になった。「授業計画が立てやすかった」や「評価の仕方が分かりやすかった」という意見が出されており、構想シートにより整理することができたため、しっかりと計画と評価ができた結果だと思われる。

イ 学部研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

- ・少人数であり、日頃から「主体的」や「対話的」を意識した授業作りについて話題としていたため構想シートへの記入も比較的しやすかった。
- ・研究対象は一事例のみであった。

ウ その他

- ・第一回全体研究会に参加することができず、狙いや進め方が不透明状態でスタートしてしまった。本校の研究部職員から助言をいただいたことで進めることができたが、来年度は可能な限り、第一回全校研究会に参加していく必要がある。

4 (資料) 単元・題材構想シート

【全体について】

学部	学年・グループ	単元・題材名	授業メンバー（O…記入者、T1を記入）
遠野分教室 中学部		総合的な学習の時間「野菜を育てよう」	O T1 T、I
単元設定の理由	野菜の栽培活動は、種まきから収穫までの変化や成長が分かりやすく、実るまで継続して世話をを行う必要があること、収穫した時の達成感や成果、友達と協力して活動する楽しさを感じることを期待できることなどから、生徒の主体的な学びや活動を引き出せると考え、設定した。		
振り返り・改善点	栽培活動に対する本人の興味関心が高く、自分で判断して行動する場面が多く見られた。水やりや草取りをしないと野菜が成長しないことにも気づき、基本的な知識や技能も身についた。また、自ら栽培したことで苦手としていた野菜を食べられるようになった。 改善点として、変化が分かりやすいような記録の仕方を工夫すること、タブレットを活用した調べ学習や収穫後の調理活動を取り入れることで、更に充実した活動となったのではないかと考える。		

【対象児童・生徒について】

2年 名前：M・T

1 目標					
◎教師や友達と一緒に野菜の世話をすることができる。【主体性】					
・成長や変化に気づき、成長の記録を作成し発表することができる。【思考力・判断力・表現力等】					
・育て方の流れや収穫の仕方が分かり、手本や手順通りに作業ができる。【知識・技能】					
2 単元・題材の指導計画と主たる学び					
小単元名 (時数・日にち等)	学習内容	目標	手立て・支援		児童・生徒の様子 手立て・支援の改善案
			⊕：主体的な学びを引き出す	⊗：対話的な学びを引き出す	
「土作りをしよう」 「定植しよう」	土作りをする 定植を行う	・底石ネットを作り、プランターに敷くことができる。	⊕⊗ ネットがやぶれないように底石を入れることができるよう、タブレット端末に活動の様子を撮影、録画する。	○	・タブレット端末を使い、良い例と悪い例を見比べることで、良い扱い方をイメージして丁寧に進める様子が見られた。
		・手順通りに土作りができる。	⊕ 生徒が自分で確認できるように手順表を提示する。	○	・手本や手順表を見て活動し、おおよその流れが分かると、後半は手順表なしで1人で進めることができた。
		・友達と協力しながら土作りができる。	⊕ 教師が土作りの手本を見せる。一人一つのプランターを担当することや、早く終わったら友達の手伝いを伝える。	○	・自分の役割（土入れ）をやり遂げ、終わっていない友達の手伝いを手伝えることができた。

<遠分中>

		<ul style="list-style-type: none"> ・苗を丁寧に扱いながら植えることができる。 ・手順通りに定植ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 役割分担をし、友達と一緒に活動する場面を設定する。 ㊦ ㊦ 一連の作業の手本を示す。タブレット端末に活動の様子を撮影、録画する。 ㊦ 植える場所に軽く跡をつける。 ㊦ 生徒が自分で確認できるように手順表を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ○ ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が底石をネットに入れるのに苦戦していることに気づき、ネットの口の部分を広げたり石を入れたりするのを自分から手伝う様子が見られた。 ・良い例と悪い例を見比べたことで、イチゴの定植では穴を掘る、苗を植える、土をかぶせる一連の作業を丁寧にを行うことができた。 ・指定されていない場所に苗を植えようとする場面があり、印を見るよう促した。→ガイドを作成し、分かりやすくする。 ・作業の前に手順表を見て進め方を確認したが、その後は手順表を見ることはなかった。
中略					
「プランター栽培のまとめをしよう」	プランター栽培のまとめをする	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て過去との違いに気づき、感想を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 写真を使い、育て方や成長を時系列で振り返る時間を設ける。 ㊦ 感想を話し合う時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真と現在の作物の状態を見比べることで、「トマトの実が赤くなった」や「割り箸よりも大きくなった」という感想を述べており、成長を感じることができたようである。
「文化祭で発表しよう」	文化祭で発表する準備や練習をする	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿を読む友達に合わせて、タブレットを操作しスライドを映すことができる。 ・全員で話す場面で、声を出すことができる。 ・自分の役割に進んで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ iPadの操作の仕方やタイミングを覚えられるように、繰り返し練習するようにする。 ㊦ 声を合わせられるように、繰り返し練習するようにする。 ㊦ スライドの担当として、機材の準備にも可能な限り取り組めるよう準備の仕方を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は原稿を読む友達の進行に合わせて合わせることが難しかったが、練習を重ねることでタイミングが分かり、自信をもって取り組むことができた。 ・始めはタイミングがつかめずにいたが、練習を重ねることで声を合わせることができるようになった。 ・「これ持ちます」と言って機材を練習場所に持って行ったり、コンセントを差すなどの準備を自分から行ったりすることができた。
3 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿（対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。）					
<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作業を自分から手伝ったり、世話をしたりすることができた。 ・水やりの意味を理解し、教師の声掛けを拒まずに水やりに行くことができるようになった。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培のまとめでは、写真を見ながら気付いたことを教師や友達に伝えることができた。 ・発表練習では、進行の友達の台詞に合わせて、タイミングを自分で判断し一人で機器を操作することができた。 ・まとめの発表では、決められた台詞を大きな声で言うことができた。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土作りや定植作業では、手本を見て作業手順を覚え、1人で進めることができた場面が多かった。 ・記録の発表で用いたiPadの操作では、操作する部分に目印を付けたことで、操作方法を覚えて1人で操作することができるようになった。 					
4 単元・題材後の改善点等（手立て・支援は妥当だったか。）					
<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SIRIや平仮名入力を行えば生徒自身で検索することも可能であったと考えられる。調べ学習を取り入れることで、栽培活動に主体的に取り組む意識がより育ったのではないかと。 ・トマトはそのまま試食したが、調理・加工する活動もできると良かった。 ・大きなプランターだったため、長期休業中は職員が持ち帰って世話をした。小さいプランターで栽培し、生徒が家庭に持ち帰るようにした方が、継続して世話をし成長を目にすることができたのではないかと。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真で記録したものを比べたが、紙テープの長さで野菜の背の高さを比較したり、できた実の数を数字ではなくシール等で視覚的に記録したりするとより分かりやすかった。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜終了後はキャベツ栽培を行ったが、行事等と重なり世話をする時間を十分取ることができず、身についた知識技能を生かすことができなかった。栽培する時期や野菜の種類を考えて計画したい。 					

<北み分小>

1 今年度の研究について

(1) 研究グループ編成について

単元・題材名	時期	対象児童	授業者(OT1)
国語「日記を書こう」	9月	小3 男子	〇M、F

(2) 取り組み状況について

今年度は3, 6年児童に、日記を書くことを通して自分が体験したことを時間的な順序に沿って思い出す力を伸ばし、適した言葉で表現することで相手に伝わり反応が返ってくる楽しさを味わわせたいと思い国語、算数の研究授業に取り組んだ。

2 今年度実施した研究経過

期 日		全 体	主な内容
4月	22日(月)	第1回全校研究会	全校研究について今年度の研究推進について
5月	22日(水)	研究会①	今年度の学部研の進め方について
6月	26日(水)	研究会②	研究計画について
8月	19日(月)	研究会③	単元・題材シートの検討
	30日(金)	研究会④	研究授業、授業研究会日程検討
9月	10日(火)	研究会⑤	学習指導要領学習会(国語)
	12日(木)	研究会⑥	指導案検討
	18日(水)	研究会⑦	研究授業3時間目
	19日(木)	研究会⑧	授業研究会(北み分中と合同)
10月	23日(水)	研究会⑨	授業改善についての報告
11月	29日(金)	第2回全校研究会	開かれた授業研究会
12月	26日(木)	第2回研修報告会	
1月	22日(水)	研究会⑩	まとめ
2月	18日(火)	第2回全校研究会	令和元年度のまとめ 次年度の研究の方向性について

3 考察

(1) まとめアンケートから【回答数：4名】

I 研究主題について

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。

「2 迫ることができた」・・・4名

・アンケート結果より、回答した4名のうち4名が「迫ることができた」と回答しており、研究主題に迫ることが出来たと考える。

<北み分小>

② 選択した理由

- ・シートの記入を通して自分が意識することが出来た。
- ・授業の時に意識して取り組むことが出来たと思う。
- ・新学習指導要領にそった内容で進めることが出来、良かった。
- ・教科をこえて学校生活のテーマをもつことで主体性を育む事につながられたと思う。

II 単元全体、三観点での目標設定および評価を盛り込んだ単元・題材構想シートについて

① 内容的にどうか。活用できたか。

「2 良かった」・・・4名

- ・アンケート結果より、回答した4名のうち4名が「良かった」と回答しており、活用できたと考える。

② 選択した理由

- ・目標や評価をTTで共通理解することが出来た。
- ・いろいろな観点から考えることが出来た。
- ・児童の変容についての記録支援のあり方について検討することが出来た。

III 授業づくりの5つの視点を取り入れた、単元・題材(授業)づくりと検証について

① 良かったか。活用できたか。

「1 とても良かった」・・・1名 「2 良かった」・・・3名

- ・アンケート結果より、回答した4名のうち1名が「とても良かった」3名が「良かった」と回答しており、活用できたと考える。

② 選択した理由

- ・自分の授業を5つの視点から整理することが出来た。
- ・授業作りで大切なことを押さえ、共通理解をして進めることが出来て良かった。
- ・授業作りで大切なことを日々他の先生方と共有し合えた。

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業のもち方、運営方法）

〈成果〉

- ・三観点の中で「主体性」に重点を置いたことで、授業研究の焦点が定まりやすかった。
- ・ワークショップ型の分科会は、少人数のグループの設定により、研究の主題に沿って話し合うことが出来た。

〈課題〉

- ・学校公開当日が分教室の登校日だったために分科会からの参加となり授業自体を見ることができなかつた。次年度以降、研究前日までに行う授業の中で、研究授業の内容に近い授業の映像をSv-fileに入れておく等していただけるとありがたい。

<北み分小>

イ 学部研究に関して（研究会、研究授業のもち方、運営方法）

<成果>

- ・国語の授業づくりを通して児童の主体性をどのように養えるのかを検討することができた。
- ・研究単元である「日記を書こう」では、年間を通して学校生活のテーマに合わせた内容の日記を書くことを繰り返した。それにより対象児童は、高い意欲を保ちつつ、日記を書くことを定着させることができた。
- ・研究単元としてより計画的に授業を積み重ねたことで、児童が今もっている語彙や話す力をじっくりと観察し、指導し、児童の良い変化を確認することができた。
- ・対象児童は日記に書きたいことを、他の児童や教師に一生懸命伝えながら、主体性をもって取り組むことができた。
- ・新学習指導要領（国語）の勉強会を行ったことで、指導要領の理解を深めるとともに、担任している児童の発達段階やニーズを再認識しながら、授業力向上につなげることができた。
- ・あい南、みなキラで授業研究会を行い、お互いの授業を見合い、意見交換することで指導力向上につなげることができた。

<課題>

- ・季節行事や学部行事を盛り込んだ「学校生活のテーマ」を設定し、国語の授業作りについて検討することが出来た。次年度以降様々な教科等において「学校生活のテーマ」に沿った学びの定着につなげていきたい。

4 （資料）単元・題材構想シート

【全体について】

学部	学年・グループ	単元・題材名	授業メンバー（O…記入者、T1 を記入）
北み分小	3・6年	日記を書こう ～校外学習の感想を書こう～	T1 M.Y T2 F.H
単元設定 の理由	自分の思いを伝えたい気持ちが強く、いろいろな言葉を知ったり書いたりすることにも興味関心が出てきている。自分が体験したことを言葉で表現し日記の形式にまとめて書くことで、自分が体験したことを時間的な順序に沿って思い出す力を育てるとともに、相手に伝わり共感できる楽しさを味わわせたいと思い、この単元を設定した。		
振り返り ・改善点	授業以外でも「日記書く？」と児童から言ってくることもあり、自分が思っていることを単語や身振りで伝えること、それが相手に伝わって共感できることの楽しさを児童は感じてくれていたように思う。 改善点としては、児童がお互いに話しやすい座席配置にすること、文章を考えるにあたって日常生活で使う語彙を増やす学習をすることなどがあげられた。座席配置についてはすぐに改善し、語彙を増やすような学習も進めている。		

<北み分小>

【対象児童・生徒について】

3年

名前：O.T

1 目標					
◎校外学習の事前学習や当日の出来事について、自分が知っている言葉や身振りで伝えようとする態度（主体性） ・校外学習の事前学習や当日に体験したことを、時間的な順序に沿って思い出そうと考える姿（知識及び技能） ・適した言葉で表現し、相手に伝わり共感し合う楽しさを体験する姿（思考力・判断力・表現力等）					
2 単元・題材の指導計画と主たる学び					
中 略					
9月18日 (研究授業)	校外学習の感想を書く。	・校外学習当日に経験した出来事を、自分が知っている言葉や身振りで伝えることができる。	◎:言葉や身振りで表現を見取り、発問したり例をあげたりして、書きたいことを引き出す。	○	・当日欠席だったため、その日に「家族と盛岡に行ったこと」について書いた。何をしたかをいろいろな言葉や身振りで表現していた。
10月1日	休日のことについて書く。	・休日に家で何をしていたか、思い出して伝えることができる。	◎:座席配置を半円状にして机なしで座り、児童・教師が顔を見て話せるようにする。	○ ▲	・教師との言葉のやりとりを聞いて、もう一人の児童も言葉を真似して話したり、相手の顔を見ている様子が見られた。 ・気持ちが盛り上がってくると机がない分立ち上がったり、話しやすくなった分ふざける様子も見られた。
3 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿（対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。）					
◎【主体的に学習に取り組む態度】 知っている言葉や動き、音を使って、一生懸命伝えようと話していた。 ・【知識・技能】 一つの出来事については、順に話すことができた。教師の問いかけに答えることで出来事を思い出し、うなずいて自分でも納得している様子が見られた。 ・【思考・判断・表現】 教師と言葉でやりとりしている中で、伝えなかったことが伝わると「そうそう！」と言いながら笑顔でうなずいている様子が見られた。					
4 単元・題材後の改善点等（手立て・支援は妥当だったか。）					
◎【主体的に学習に取り組む態度】 教師が先に手本となる日記を書くことで興味をもって内容に質問をしたり、「次は？」と言ったりして、期待感をもつことができていた。 ・【知識・技能】 日記を書き始める前に質問をして教師とやりとりすることで、出来事を思い出している様子が見られた。 ・【思考力・判断力・表現力】 教師と言葉でやりとりしている中で、伝えなかったことが伝わると「そうそう！」と言いながら笑顔でうなずいている様子が見られた。					

<北み分中>

1 今年度の研究について

(1) 研究グループ編成について

- ・「作業学習」で全職員が関わり、3つの学びの視点を位置づけた授業づくりを行い、単元構想シートで取り組み状況を確認し評価することで、授業改善を行った。

(2) 取り組み状況について

手・工芸	製品を作ろう
紙工	～こたままつりで販売しよう～

2 今年度実施した研究経過

期 日		全 体	主な内容
4月	22(月)	第1回全校研究会	令和元年度全体研究について
5月	22(水)	研究日①	具体的な進め方の検討
6月	26(水)	研究日②	単元・構想シートの作成、検証
7月	22(月)	研究日③	単元・構想シートの作成、検証
9月	5(木)	研究日④	単元・構想シートの作成、検証
10月	1(火)	研究日⑤	授業研究会
	23(水)	研究日⑥	単元・構想シートの作成、検証
11月	27(水)	研究日⑦	単元・構想シートまとめ①
	29(金)	開かれた授業研究会	
12月	12(木)	研究日⑧	単元・構想シートまとめ②
	26(木)	第2回研修報告会	
1月	21(木)	研究日⑨	学部研究のまとめ
2月	18(木)	第2回全校研究会	令和元年度のまとめ、次年度の研究の方向性

3. 考察

(1) まとめアンケートから

I 研究主題について

- ① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。
良かった (4名)
- ② 選択した理由

- ・主体的・対話的な手立て・支援を検討することができた。
- ・生徒の主体性を育む授業ができた。
- ・授業を行う上で常に意識して取り組めた。

II 単元全体、三観点での目標設定および評価を盛り込んだ単元・題材構想シートについて

- ① 内容的にどうか。活用できたか。
とても良かった (1名)
良かった (3名)

<北み分中>

② 選択した理由

- ・複数の観点・視点から「主体性」について考えることができた。
- ・書きやすい様式だった。
- ・三観点を取り入れた目標を設定することで、生徒の目標をより具体的に検討することができた。

Ⅲ 授業づくりの5つの視点を取り入れた、単元・題材(授業)づくりと検証について

① 良かったか。活用できたか。

とても良かった (1名)

良かった (3名)

② 選択した理由

- ・視点が明確化されたことで、昨年度よりわかりやすく授業づくりができた。
- ・共同的活動への支援について、認識を深めることができた。
- ・授業内容がどうだったのか、教師の支援はどうだったのか、ひとつひとつ振り返ることができた。

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して(研究会、研究授業の持ち方、運営方法)

- ・アンケート結果から「研究主題に迫った研究を進めることができた」「三観点を盛り込んだ単元・構想シートを活用できた」「五つの視点を取り入れた授業作りができた」などの意見が多数で、授業改善に役立たせることができた。

イ 学部研究に関して(研究会、研究授業の持ち方、運営方法)

- ・単元・構想シートを活用することで、授業の振り返りや見直しなどPDCAサイクルを円滑に進めることができた。
- ・少人数で研究会を進めていることもあり、授業についての意見を出しやすかった。
- ・北み分中、北み分小と授業研究会を行い、お互いの授業を見合って意見交換を行った。他学部の授業の視点や考え方について学び、授業改善に生かすことができた。
- ・次年度の研究について、授業の持ち方や研究の進め方など、全員が関わられるような工夫が必要である。
- ・次年度も他学部との授業研究会を実施したい。

<北み分中>

4 (資料) 単元・題材構想シート

【全体について】

学部	学年・グループ	単元・題材名	授業メンバー（O…記入者、T1を記入）
北み分中	全学年	こたままつりに向けて製品を作ろう	T1 O、O K、I T S
単元設定の理由	こたままつりで販売2することを目標にすることで、製品作りの工程の中で、売れる商品を作るためにはどうすれば良いかを教師と一緒に考えることができる。又、共に制作することで、意欲的に自ら進んで活動し達成感を味わうことができるのではないかと考え、この単元を設定した。		
振り返り ・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の作業で、制作の手順や工程を覚えて作業に取り組む中で、販売することを目標に単元を設定したことで、目標が明確になり集中して取り組む姿が見られるようになった。 ・作業種によっては、技術的に難しい取り組みもあり、道具の工夫や支援の工夫が必要である。 ・単元の取り組み期間を考えると、長かったように思う。2～3ヶ月のスパンで単元を設定し、取り組めるようにしたい。 		

【対象児童・生徒について】

1年 名前：T・K

1 目標 作業内容を理解して時間いっぱい集中して取り組むことができる。					
◎自分の担当作業が分かり、見通しを持って意欲的・主体的に取り組むことができる。【主体性】					
・始まりや終わりの挨拶・返事・分からないときにどうすれば良いかの質問、終わったときなどの報告ができる。【思考力・判断力・表現力等】					
・担当する作業手順を覚え、正確に製品を作ることができる。【知識及び技能】					
2 単元・題材の指導計画と主たる学び					
小単元名 (時数・日にち等)	学習内容	目標	手立て・支援		評価 児童・生徒の様子 手立て・支援の改善案
			㊦：主体的な学びを引き出す ㊧：対話的な学びを引き出す		
中 略					
製品を作ろう (6月) 校内実習	手芸 工芸 木工	・作業内容を理解し時間いっぱい取り組む。	㊦㊧返事、挨拶、報告の仕方をカードで示す。	○	・報告は定着しているが、挨拶や返事によそ見が多いなど、集中が途切れる。 (改善案)→別室や同じ作業チームで取り組ませるなど工夫する。 ○ ・その日の目標を意識して取り組めるようになってきた。また、ホワイトボードに作業量を示すと意識して取り組んだ。
			㊧集中しやすいように、机や場所の工夫をする。	○	
後 略					
3 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿(対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。)					
◎【主体的に学習に取り組む態度】 目標や作業量を示すことで、意識をして時間いっぱい集中して取り組むことができた。 作業内容や手順を理解し、意欲的に取り組むことができた。					
・【思考力・判断力・表現力】 自分で組紐の糸の色を選び、制作することができた。 わからないときや困ったときは、自分から質問することができた。 指示を聞き、一つの工程が終わると、「終わりました」「確認お願いします」などの報告ができるようになってきた。					
・【知識・技能】 作業場所を構造化し、作業手順を示すことで、やり方を理解してスムーズに取り組み、正確に製品を作ることができた。					
4 単元・題材学習後の改善点等(手立て・支援は妥当だったか。)					
◎【主体的に学習に取り組む態度】 手順表を活用することで、一人で取り組むことができるようになった。 その日に取り組んだ作業量を確認することで、達成感や満足感を持ち、次回の意欲に繋げることができた。					
・【思考力・判断力・表現力】 話す速さや息継ぎ、タイミング、区切りを視覚的に示すことで、報告の仕方が改善された。					
・【知識・技能】 作業場所を工夫することで、集中して作業に取り組むことができた。 紙すき作業は、パルプ液に板を斜めに入れることが難しかったので、支援の工夫は必要であった。					

<寄宿舎>

1 今年度の研究について

寄宿舎では全校研究主題にならない、日常の「話し合い活動」の場面から生徒の主体的な姿を引き出すための取り組みを行ってきた。1年次は、それぞれの棟で活動テーマを設け、新学習指導要領に示された三つの学びを位置づけた支援になっているかどうか、チェックシートを用いて評価、検証した。その結果、職員主導から子ども主体へと職員の意識も変化し、話し合いがしやすい環境を整えることができた。また、支援の充実を図るため、全棟同じ活動テーマを設定し比較や参考にするという次年度への方向性が確認された。これらを受け今年度は、話し合い活動をさらに発展させ、昨年度から使用している「話し合い活動評価シート」と棟外出を共通の活動テーマとした「<9月棟外出>活動評価シート」を用いて研究を推進した。

(1) 研究グループ編成、進め方について

- ・生活棟毎に（すずらん棟、あおば棟、ひまわり棟）3つの研究グループで編成した。
- ・「話し合い活動で目指す生徒の姿」を定め、シートを用いて実践の評価、検証、改善を行った。

<話し合い活動で目指す生徒の姿>

- ・目標をもって、自ら行動する姿
- ・自分の役割を果たそうとする姿
- ・自分の考えを相手に伝える姿
- ・仲間と関わることに喜びを感じ、相手の気持ちを考えて発言や行動する姿

(2) 取り組み状況について

- ①棟の行事や活動に合わせたテーマ：「係決め」「当番決め」「活動内容決め」等 ※資料1
- ②全棟共通テーマ：「9月棟外出」 ※資料2

2 今年度実施した研究経過

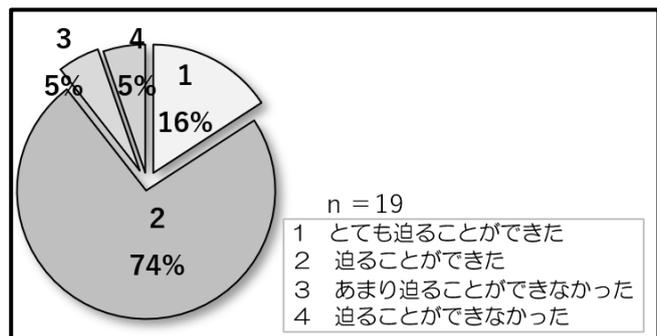
期 日	全 体	主な内容	
4月 22日(月)	第1回全校研究会	平成31年度全体研究について	
5月 17日(金)	寄宿舎研究会①	R元年度寄宿舎研究計画、具体的な進め方について	
6月 21日(金)	研究日①	棟毎：シート記入、検証、改善	
7月 19日(金)	研究日②	棟毎：棟外出の計画と検討	
9月 19日(木)	研究日③	棟毎：シート記入、検証、改善	
10月 25日(金)	寄宿舎研究会②	実践報告、検証、改善、今後の取り組みについて	
11月	22日(金)	研究日④	棟毎：シート記入、検証、改善
	29日(金)	開かれた授業研究会	
12月	13日(金)	研究日⑤	棟毎：令和元年度寄宿舎「研究のまとめと反省」
	26日(木)	第2回研修報告会	研修報告
1月	15日(水)	寄宿舎研修会	遠藤寿明校長による講演 「特別支援教育を支える教師・学校を目指して」
	24日(金)	寄宿舎研究会③	R元年度研究のまとめと反省
2月 18日(火)	第2回全校研究会	今年度全体研究のまとめ 次年度研究の方向性、「開かれた授業研究」について	

3 考察

(1) まとめアンケートから

I 研究主題について

- ① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。



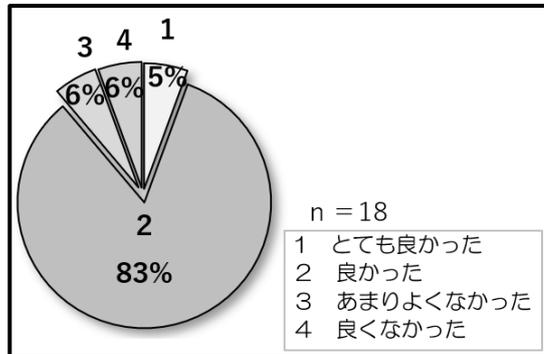
<寄宿舍>

② 選択した理由

- ・日常の活動場面を取り上げたので、「研究のための研究」にならず、主体的な活動を意識して取り組み、成果がみられたから。
- ・主体的な話し合いのための形ができ、生徒自ら考え発信したり、物事を判断したりするようになってきたから。
- ・評価シートで取り組みを振り返り、次の指導場面に生かすことができた。
- ・シートを上手に使うことがなかった。

II 話し合い活動評価シートについて

① 内容的にどうか。活用できたか。

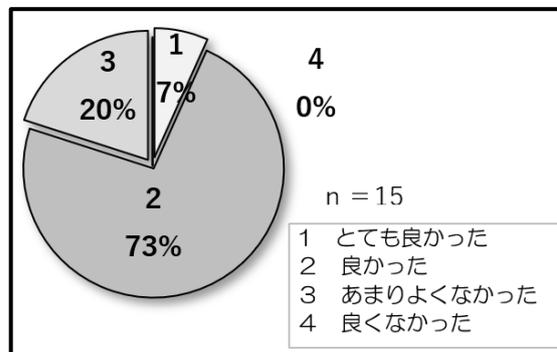


② 選択した理由

- ・活動評価シートは記入しやすく、活用できた。チェック項目の他に自由記述欄が設けてあり、そこから改善事項や方向性を見出すことができた。
- ・自分たちの支援、指導を振り返る際の評価基準や観点が明確になった。
- ・評価シートを基に支援者間で十分な意見交換ができ、検証や評価がしやすかった。
- ・振り返りから課題をみつけ、次に生かせなかった。

III 授業づくりの5つの視点を参考にすることができたか。

① 良かったか。活用できたか。



② 選択した理由

- ・子どもと共に活動するにあたり、支援の参考になった。
- ・5つの視点で示された方向性や具体的内容を参考にし、目標や支援方法、手立てを考えることができた。

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して

- ・アンケート結果から、概ね研究主題に迫る取り組みができたと考えられる。身近な生活の話題を話し合うことで「考える」「伝える」「選択する」等、生徒の主体的な姿を引き出すことができた。
- ・評価シートについては様式も含め「活用できた」という意見が多く、「支援を振り返る際の評価基準や観点、改善点が明確になった」という回答を得ることができた。その一方で上手く活用できなかった等の回答が少数あった。
- ・寄宿舍研究会では棟での取り組みを報告し合い支援の参考にすることができた。

<寄宿舍>

イ 棟研究に関して

- ・ 普段から実態や支援の共有が図られている棟単位のグループ編成は、職員間で日常的に推進できることから取り組みやすかった。
- ・ 話し合いのルールや進め方が生徒に浸透し主体的な話し合いの形ができた。棟だけでなく他の会議等でも意識するようになった。結果、目指していた生徒の姿に近づけたと感じている。
- ・ 自発的な活動を引き出すための丁寧な準備や、工夫、実践の繰り返しが成果へと繋がると考えるが、職員が時間に追われ十分な下準備ができていないことや、個々の理解度に差があるためどこに基準を合わせたらよいか難しいという課題について、今後支援体制や支援方法を検討していく必要がある。

4 (参考)活動評価シート

(資料1)話し合い活動評価シート

実施日・内容	対象	評価日・記入者
令和元年5月15日(水)~17日(金)【おやつ作り決め】	ひまわり棟舎生	令和元年6月20日(木) Y.Y

1 目標・ねらい【ゴール像：目指したい「深い学び」(何ができるようになるか)】			
・ みんなで作るおやつを決めることができる。			
2 評価内容と評価 (良い○・不十分△)			
分かる ※何を学ぶか	1	話し合いの題材は適切だったか	○
	2	見通しをもてる内容になっていたか	○
	3	話し合いの目的は明確だったか	△
できる ※どのように学ぶか	4	人数(グルーピング)は適切だったか	○
	5	職員間の連携はできていたか	○
	6	時間配分、場所の工夫は適切だったか	○
	7	話し合える雰囲気(関係づくり)になっていたか	○
	8	話し合いが活潑になるような働きかけができたか	○
振り返る ※何ができるようになるか	9	話し合いの内容は適切だったか	○
	10	話の聞き方、話し方など場に応じた指導をしたか	○

<自由記述>

- ・【2】始めに棟会で作って食べてみたいおやつ希望を聞き、その後投票(7つのおやつ希望の中から一人2つ選択)により決定した。一人一人投票したことで、舎生の気持ちを反映させることができた。
- ・【5】希望聞き取りから投票までの流れを職員間で確認していたため、その都度勤務している職員が、舎生の投票している様子を見守ることができた。
- ・【6】投票期間を3日間設けたことで、個々に眺め、ゆっくり考えて投票していた。
- ・【8・10】一目で分かり投票できるように、おやつ画像を入れて投票用紙を作成した。文字での読み取りや、発語での意思表示が難しい舎生も、画像を見て選択し、自分でシールを貼ることができた。

~反省~

- ・【3】希望のおやつに投票する時に、一人で2つのおやつを選ぶことを明確にするために、「青」と「黄」のシール2種類を用意した。しかし舎生からすると色の違うシールは同じ場所に貼ってもいいと捉えてしまい、数名の生徒が1種類のおやつしか選択しないことがあった。2つ選ぶ手立てとして不十分だった。



<寄宿舎>

(資料2) 「<9月棟外出>活動評価シート」 ～ひまわり棟～

月日	話し合いの内容・目標	対象者	手立て・支援	評価	舎生の様子、手立て・支援の改善案
① 7/24 (水)	内容：「棟外出の行き先決め」 目標：「自分が行きたい場所を選ぶ（シールを貼る）ことができる」	棟全員	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードに候補に挙げた6箇所の写真を掲示する。 他生の意見に左右されないようにシールを使った投票制にする。 これまでの反省を活かし、分かりやすいように1人1枚のシールで投票する。（以前2枚にしたところ、同じ場所に2枚シールを貼る舎生がいた。） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見やすい大きさと比較や選択がしやすかった。 ▲ 他生から見えないように、ホワイトボードの裏面に投票欄付きの写真を掲示した。投票場所のスペースが狭かったため、写真全体が見えづらく、最初に目に入った所に投票してしまう舎生がいた。 ▲ (改善) →広いスペースで行う。 ○ シール投票に慣れ、全員迷うことなく行きたい場所を一つ選びシールを貼ることができた。 	
② 8/27(火)	内容：「グループ分けをする」 目標：「みんなが楽しめるグループ編成ができる」	2,3年生 選抜5名	<ul style="list-style-type: none"> 組み合わせが分かりやすいように、顔写真マグネットとホワイトボードを準備する。 目的（グループ編成）と配慮点を説明し、必要に応じてアドバイスをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 顔写真マグネットだと分かりやすいだけでなく、何通りかの組み合わせを手軽に試すことができた。 ○ 子ども同士の関わりや相性について意見し合い、どのように編成したらみんなが楽しめるか考えていた。 ○ 決めた2つの案について「先生はどう思いますか？」と参考意見を求める発言があった。 ○ 編成案を職員で確認した。相性などよく配慮されており変更点はなかった。 ○ 掃除の分担決めなどの経験が活かされ、積み重ねの成果が感じられた。 	
③ 9/3 (火)	内容：「ルールを決める」 「歌う順番を決める」 目標：「自分の意見を言うことができる」	グループ毎 (6G)	<ul style="list-style-type: none"> 話し合う項目を記した記録用紙を準備する。 ひとり一発言を促す。 意思表示が苦手な舎生へサポートをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 項目に沿って進めることができた。グループによっては司会と記録も舎生が行った。 ○ 項目が記された記録用紙があると、話しあう内容が明確になり、内容がふれることなく進めることができた。 ○ 積極的に発言する舎生が多かった。発言が苦手な舎生には職員から投げかけ促すと応えることができた。 ○ 子ども同士で発言を促したり、意見を言いづらい人には「書いたら？」と働き掛けたりする様子が見られた。 ○ 順番決めでは、不在の舎生を1番目にするなど配慮にける面が見られた。 	
④ 9/4 (水)	内容：「ハンバーガー注文のとりまとめについて」 目標：「仕事内容を理解し、自分たちで仕事を分担することができる」 「ハンバーガー注文について全員に連絡することができる」	選抜2名	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの育成を視野に入れ、東西から1名ずつ選出する。 仕事は「注文の取りまとめ」に限定し、全体への連絡（話す）する内容を職員と確認する。 間違いなく必要な事が伝えられるか見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 立候補や指名を受け意欲的に活動しようとする姿勢がみられた。 ○ ハンバーガーの写真の掲示、注文についての連絡事項など仕事の内容を理解し、自分たちで「いつ」「どの部分」を「誰か話す」のか相談して決めることができた。 ▲ 話し合い後にそれぞれのリビングの見やすい位置に、マクドナルドの写真を掲示することができた。 ○ 全員に連絡する際、話すことを忘れ一時、間が空いた。▲→話す内容はメモした方が良い。 	
⑤			内容：「ハンバーガーの注文について」		※中 略
⑥			内容：「ハンバーガー注文の集計をする」		※中 略
⑦			内容：「小遣い用紙の記入について」		※中 略
⑧			内容：「集金したお金を支払先ごとに分ける」		※中 略
⑨ 9/24(火)	内容：「事前指導」 目標：「当日の行動の流れが分かる」 「グループで決めたルールの発表ができる」	棟全員	<ul style="list-style-type: none"> 事前指導の内容は注目の効果を狙って主にPCからテレビに映して行う。 グループ毎に話し合ったルールを書いた用紙を見ながら、発表の仕方と発表者（リーダー）を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビの画面は注目しやすく、全員集中して聞く事ができた。 ○ ルールの発表者は、前に出て堂々と発表することができた。普段代表で発表する機会がなかった舎生も、職員のサポートも得ながら発表することができた。 ○ 発表者に対し拍手で称える様子が見られた。 	
⑩ 9/26(木)	内容：「事後の振り返り」 目標：「感じたことや、感想を話すことができる」	グループ 毎 (6G)	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの内容が分かりやすいように、簡単な項目を設けた記録用紙を準備する。 司会と記録を決め、自分たちで振り返りを行う。 各グループに職員が一人入って、進め方のサポートや話し合いの様子を観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 項目に沿ってそれぞれ感じたことなど出し合うことができた。 ○ 職員間の確認が不十分だったため、グループで進め方にはばつきがあった。▲→職員間で進め方を確認する。 ○ 必ず1名職員が入っていたので、発言を促したり、投げかけたりすることができた。 ○ 感想では「グループを自分たちで決めて行けて良かった。」「みんなと一緒に楽しく歌うことができた」「時間を意識して喧嘩もなく楽しめた。」「初めてのカラオケでも教え合って歌うことができた。」「もっと時間がほしいかった。」「予算を高くしてカラオケのフードメニューやデザートなど食べたかった。」「ゴミの持ち帰りもできた。」など出された。自分たちで決めたルールや事前指導の内容を軸に、振り返りや反省、感想の中身が以前に比べ具体的になった。 	